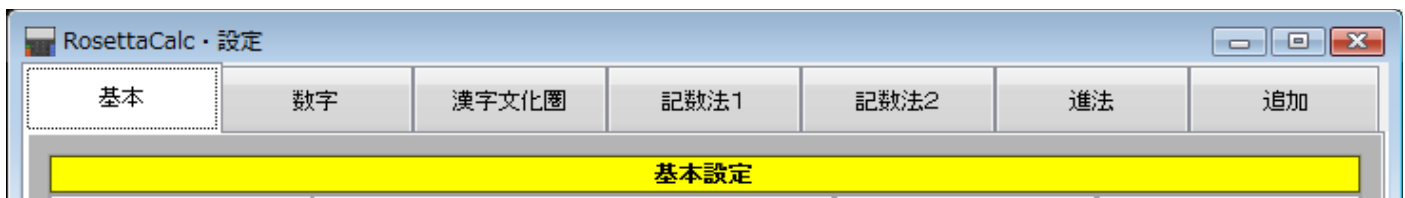
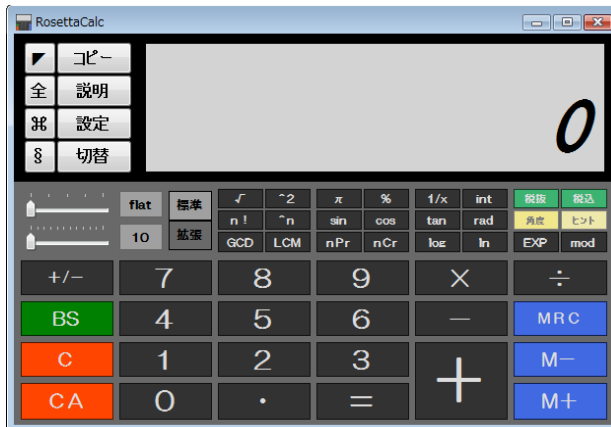


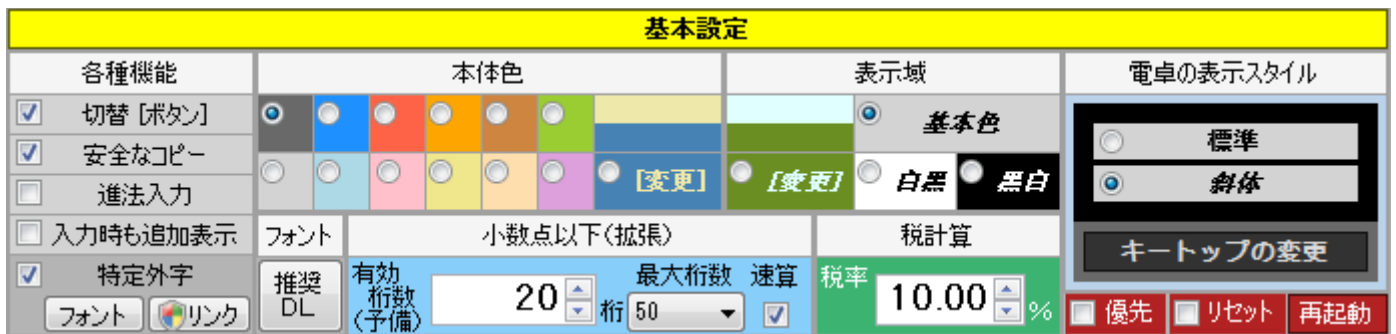
## ◆◆◆ 基本設定 ◆◆◆ (SettingBase)

「基本設定」は、電卓画面の左上にある「設定」ボタンを押すと開く、設定画面の最初のタブ「基本」ページの上部にあります。



(画像は Windows Vista で撮影しており、ご利用のOSによっては印象等が異なる場合があります。)

「基本設定」では、電卓機能の基本的な部分についての設定をおこないます。

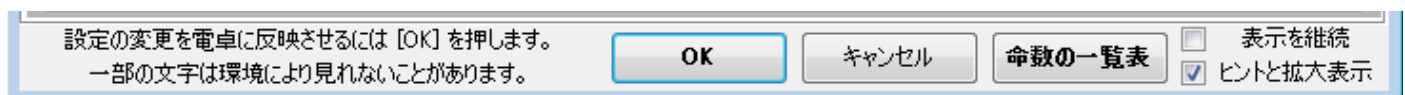


基本設定は、大きく分けると、次の4つの機能からなります。

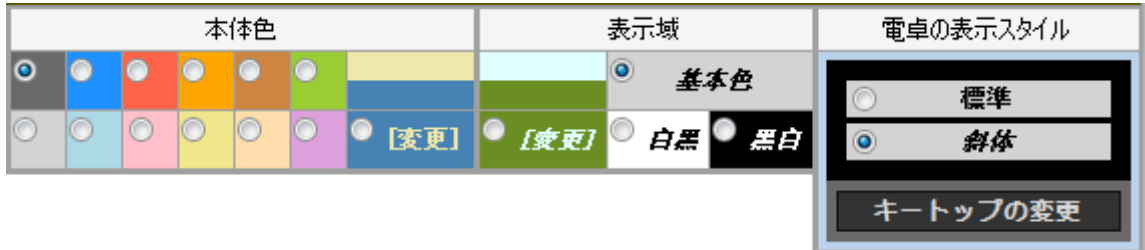
- ◆◆ 電卓画面の表示関連 ————— 「本体色」、「表示域」、「電卓の表示スタイル」
- ◆◆ 数値関連の設定 ————— 「小数点以下（拡張）」、「税計算」
- ◆◆ 各種機能 および フォント
- ◆◆ 起動系機能 ————— 「優先」、「リセット」、「再起動」

具体的な設定項目については、以下で見ていきます。

変更した設定内容を電卓に反映させるには、設定画面の最下部にある「OK」ボタンを押します。  
(OKボタンが押されない限り、電卓には反映されないようになっています。)



◆◆ 電卓画面の表示関連 ———— 「本体色」、「表示域」、「電卓の表示スタイル」



ここでは、電卓画面の色調やスタイルなど表示に関する事柄を簡単な手順で変更できるようにしています。

●左側の「本体色」では、電卓本体部分の色を選べます。

簡単に選べるよう、まず12色のプリセットを用意しています。

電卓本体の（標準的な）表示では、画面上部にあたる「表示域の枠」と画面下部にあたる「テンキー部分の下地」の、2色で大きく構成されますのでプリセットは、ある程度の色バランスが整ったものになるように準備したものです。

12個のプリセットに示した色は、端的な「系統色」（イメージカラー）です。より具体的な配色は「電卓の表示スタイル」部分の色が模式的に変わるので、選択を切り替えたその場で確認できます。

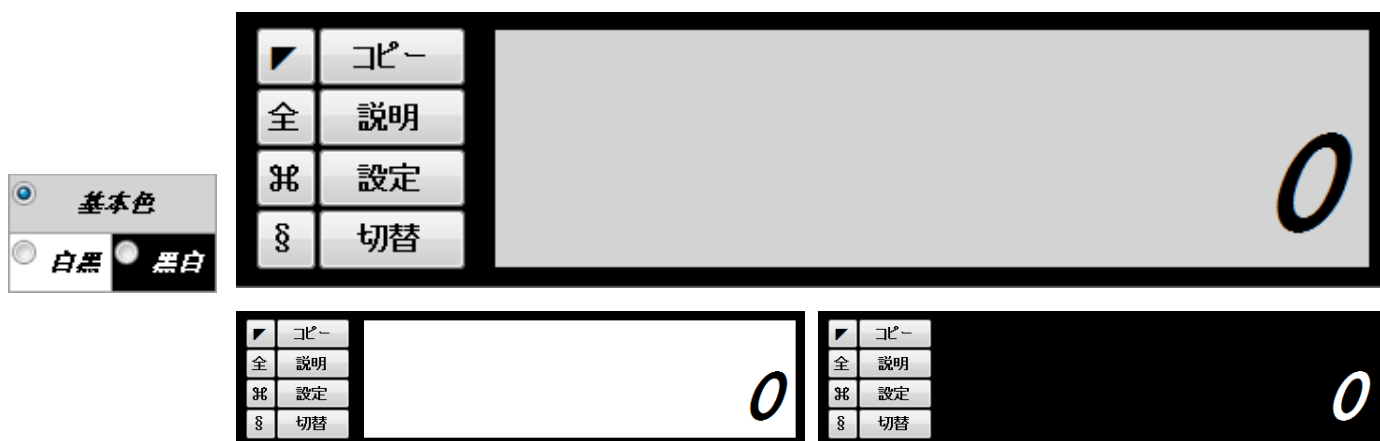


一部を除き、テンキーなど多くのボタンの色は「表示域の枠」よりわずかに明るい色となります。「OK」ボタンを押せば電卓画面に反映します。最終的にはそれぞれ次のような配色となります。



当初の色に戻す場合は、プリセット左上の「シック」を選んでください。  
（プリセットの12色とは別に「変更」もあります。これについては後述します。）

- 中央の「表示域」では、電卓画面の表示域（実際の電卓なら液晶部分に相当）の色を切替できます。

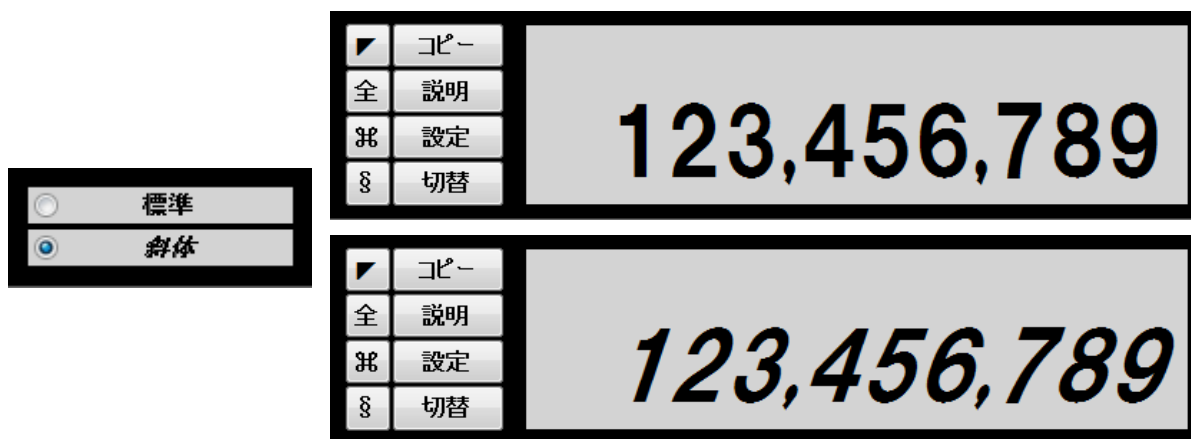


「基本色」なら実際の電卓に近く、目に優しいので、普段の利用に向いています。  
「白黒」や「黒白」は、画像撮影時などに便利になるよう準備したものです。

上記「表示域」の色は、通常利用時（電卓画面がアクティブな状態）での色を示しています。  
他のアプリや別画面等にフォーカスが移って、電卓本体に入力できない状態になると  
電卓画面の表示域は上記の色よりも暗くなり、入力可能な状態かどうかを端的に示します。

（この他に「変更」もあります。これについては後述します。）

- 右側の「電卓の表示スタイル」は、表示域の基本的な字体スタイルを「標準」か「斜体」かで選べます。



実際の電卓らしく見えるよう、初期値は「斜体」にしています。  
ただ、扱う数字の種類によっては「斜体」では雰囲気が出ないなどの場合もあるかと思われます。  
その場合には「標準」（正体）に切り替えてご利用ください。

なお、表示域を「右クリック」して表示される「スタイル」から変更する方法もあります。  
その場合は [ 標準 Regular ]、[ 斜体 Italic ]、[ 太字 Bold ]、[ 太字 斜体 Bold Italic ] の  
最大4種類から選んで利用できるようになっています（可能な場合：電卓画面の説明書をご参照ください）。

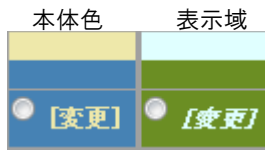
（上の画像のように上下で揃えてみるとわかりますが  
「標準」と「斜体」での各文字の位置は、底辺部分において、ほぼ一致しています。）

（ほかに「キートップの変更」もあります。これについては後述します。）

（文字の大きさはいつでも調整できるよう 電卓画面の左上部分に 調整用ボタンを用意しています。）

## ●表示色の [変更] について

「本体色」および「表示域」の色は、中央寄りに配置している [変更] 部分からまったく自由な配色にすることもできます。



それぞれ [変更] と書かれたラジオボタンの上側には、色を示した部分が4箇所あります。

これら4色は [変更] と書かれたラジオボタンを選ぶと有効になる色を示しており  
左側「本体色」での上側は「表示域の枠の色」、下側は「テンキー部分の下地の色」  
右側「表示域」での上側は「表示域の文字の色」、下側は「表示域の下地の色」を示しています。

初期値ではとりあえず例としてこれらの色が入っているというだけです。  
この4色のうち、どれでもいいので（あとで切替できます）1箇所をクリックすると  
選んだ箇所の色がとりあえず選択された「変更色 配色の設定」画面が表示されます。

次の画像は、上の画像で矢印で示した右上部分「表示域の文字の色」をクリックして開いた画面です。



（この機能は当方でご提供している別アプリ [ColorCode Researcher] の RosettaCalc 専用版です。）

この画面の左下部分では、先ほどと同様に4つの箇所が選べるようになっており  
その右には選択中の色が表示されています。

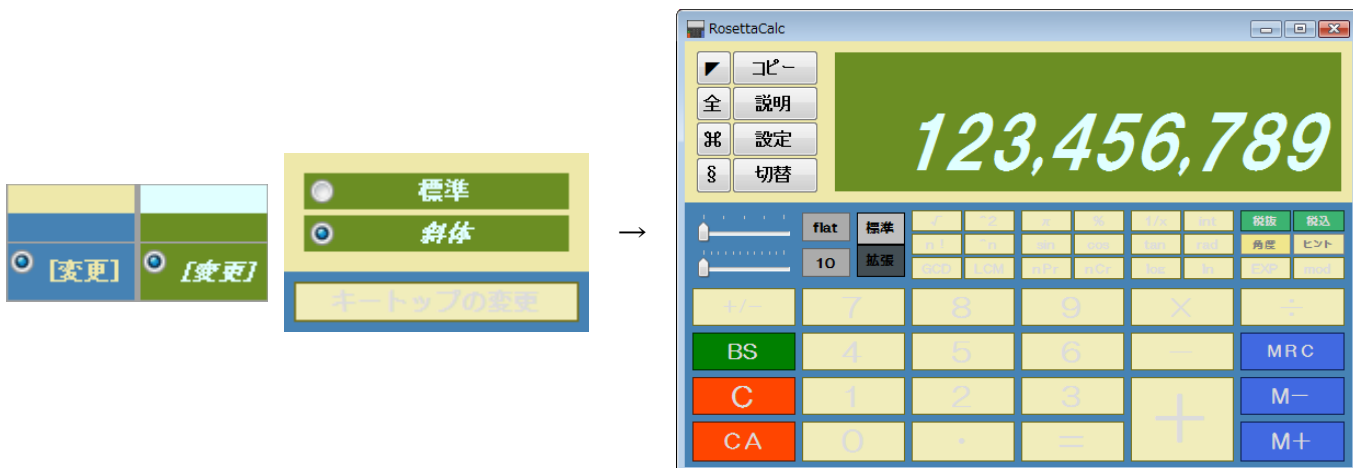
右上部分は当アプリの電卓画面を模しており、電卓画面の主要な4色を一度に  
全体の色調のバランスを見ながら切り替えて自由に配色できるようになっています。

画面左上のグラデーション部分をクリックして直接色を選ぶこともできますし  
下段の3原色（RGB）の配合から独自に色を作り出したり明暗を調節したりもできます。

「Color Picker」を利用すれば、当アプリ以外の他所にある色を取り入れることも可能です。

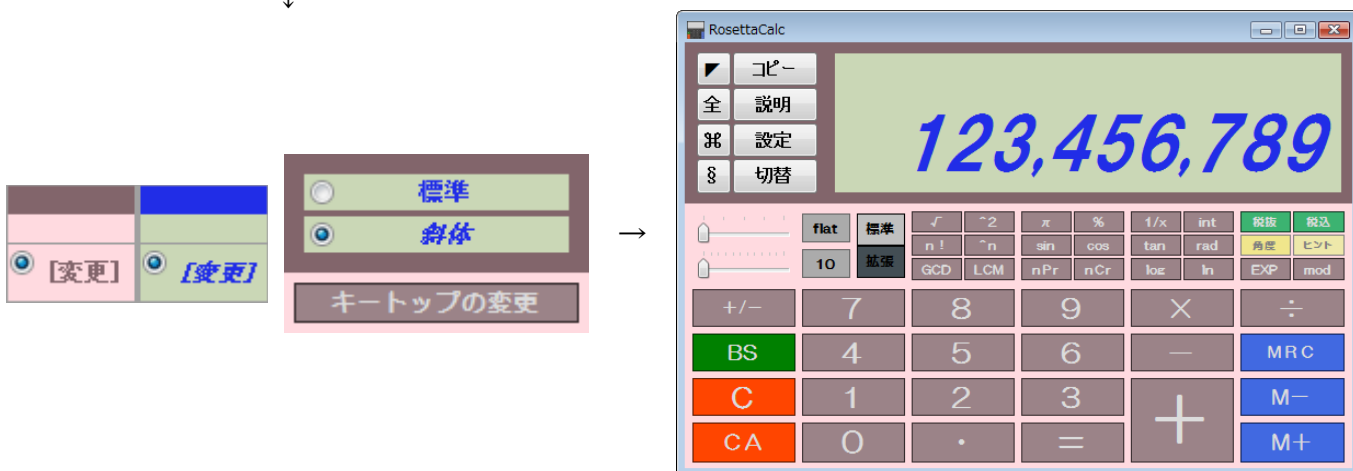
ここでも「OK」ボタンを押さない限り、電卓画面はおろか設定画面にも反映されませんが  
「OK」を押して [変更] にチェックが入っていれば、設定した色が電卓画面に反映されます。

次の画像は、色は変えずに、「本体色」と「表示域」とで、単純に「変更」を選択してみたところです。



この配色では、一般的には使いづらいものと思われます。

次の画像は（配色センスはあまり良くありませんが）試しに4色とも変更してみたところです。



一部のボタン等を除き、すべての色が設定可能ですので、逆に使いにくくなる可能性も含んでいます。設定できるのは4色の組み合わせ方ですので、気分良く使えるようにお選びください。適切に使えば、色覚異常など眼に障害がある方への助けになる可能性もあります。



● 「電卓の表示スタイル」にある「キートップの変更」について

**キートップの変更**

電卓画面の [0]~[9] の、いわゆるテンキー（10 キー）部分、および小数点については各キーの表面（キートップ）に表示している数字の文字を、任意の文字に変更できます。

このボタンはテンキーなどのキーの状態を模しており、ボタンを押すと、次の画面が表示されます。



次頁に示すように、左上部分の「数字用の文字の選択肢」は、基本的には「数字」ページでも選択可能な世界で使われる数字を網羅したものの中から選べるようになっており、小数点の文字も下段で選べます。

画像では「アラビア数字（算用数字）」が [HG 丸ゴシックM-PRO] フォントで表示するよう選ばれておりこれは中段の「テンキーに表示する文字」にて「選択肢より選択」として再度選択されています。

キートップの表示用には、視認性を高める必要から、ここではアラビア数字を選択しても実際には半角の数字ではなく全角数字になるようにしており、小数点にも「・」（中黒）を使っています。正しい半角数字にしたい場合は、中段の2行目を選択して個別の欄に半角数字を入力すれば可能です。

さらに以下の画像では、途中にある赤色の区切り線から下は「記数法1」「記数法2」ページで使う「ゼロを持たない数字」や「アラビア数字とは違った書き方をする数字」なども追加しています。

これは、キートップの表示に関しては「区別できれば文字は何でもかまわない」のでできるだけ多くの数値表現に関わる文字から選べるようにしたものです。

また、中段で2行目を選んで 任意の文字を「入力」し、それをキートップに反映させることも可能です。

テンキー表示用	数字用の文字の選択肢									
<input checked="" type="radio"/> アラビア数字(算用数字)	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
<input type="radio"/> アラビア・インド数字	•	١	٢	٣	٤	٥	٦	٧	٨	٩
<input type="radio"/> ペルシア数字	•	۱	۲	۳	۴	۵	۶	۷	۸	۹
<input type="radio"/> ブラーフミー数字	•	१	२	३	४	५	६	७	८	९
<input type="radio"/> シャーラダー数字	•	୦	୧	୨	୩	୪	୫	୬	୭	୮
<input type="radio"/> ターグリー数字	•	୦	୧	୨	୩	୪	୫	୬	୭	୮
<input type="radio"/> デーヴァナーガリー数字	०	१	२	३	४	५	६	७	८	९
<input type="radio"/> グルムキー数字	۰	۱	۲	۳	۴	۵	۶	۷	۸	۹
<input type="radio"/> グジャラーティー数字	૦	૧	૨	૩	૪	૫	૬	૭	૮	૯
<input type="radio"/> サウラーシュトラ数字	୦	୧	୨	୩	୪	୫	୬	୭	୮	୯
<input type="radio"/> オリヤー数字	୦	୧	୨	୩	୪	୫	୬	୭	୮	୯
<input type="radio"/> オル・チキ数字	୦	୧	୨	୩	୪	୫	୬	୭	୮	୯
<input type="radio"/> ベンガル数字	୦	୧	୨	୩	୪	୫	୬	୭	୮	୯
<input type="radio"/> チャクマ数字	୦	୧	୨	୩	୪	୫	୬	୭	୮	୯
<input type="radio"/> マニプール数字	୦	୧	୨	୩	୪	୫	୬	୭	୮	୯
<input type="radio"/> テルグ数字	౦	౧	౨	౩	౪	౫	౬	౭	౮	౯
<input type="radio"/> カンナダ数字	೦	೧	೨	೩	೪	೫	೬	೭	೮	೯
<input type="radio"/> タミル数字	௦	௧	௨	௩	௪	௫	௬	௭	௮	௯
<input type="radio"/> マラヤーラム数字	൦	൧	൨	൩	൪	൫	൬	൭	൮	൯
<input type="radio"/> カヤー数字(ミャンマー)	၀	၁	၂	၃	၄	၅	၆	၇	၈	၉
<input type="radio"/> シャン数字(ミャンマー)	၀	၁	၂	၃	၄	၅	၆	၇	၈	၉
<input type="radio"/> ミャンマー数字(旧ビルマ)	၀	၁	၂	၃	၄	၅	၆	၇	၈	၉
<input type="radio"/> 新タイ・ルー数字	၀	၁	၂	၃	၄	၅	၆	၇	၈	၉
<input type="radio"/> ホーラ数字(タイ・タム)	၀	၁	၂	၃	၄	၅	၆	၇	၈	၉
<input type="radio"/> タム数字(タイ・タム)	၀	၁	၂	၃	၄	၅	၆	၇	၈	၉
<input type="radio"/> ラーオ数字(ラオス)	໐	໑	໒	໓	໔	໕	໖	໗	໘	໙
<input type="radio"/> タイ数字	໐	໑	໒	໓	໔	໕	໖	໗	໘	໙
<input type="radio"/> クメール数字(カンボジア)	០	១	២	៣	៤	៥	៦	៧	៨	៩
<input type="radio"/> チャム数字(カンボジア)	໐	໑	໒	໓	໔	໕	໖	໗	໘	໙
<input type="radio"/> リンブ数字(ネパール)	०	१	२	३	४	५	६	७	८	९
<input type="radio"/> レブチャ数字(ブータン)	༠	༡	༢	༣	༤	༥	༦	༧	༨	༩
<input type="radio"/> チベット数字	༠	༡	༢	༣	༤	༥	༦	༧	༨	༩
<input type="radio"/> モンゴル数字	᠐	᠑	᠒	᠓	᠔	᠕	᠖	᠗	᠘	᠙
<input type="radio"/> スンダ数字(インドネシア)	ᮀ	ᮁ	ᮂ	ᮃ	ᮄ	ᮅ	ᮆ	ᮇ	ᮈ	ᮉ
<input type="radio"/> ジャワ数字(インドネシア)	ᮘ	ᮙ	ᮚ	ᮛ	ᮜ	ᮝ	ᮞ	ᮟ	ᮠ	ᮡ
<input type="radio"/> バリ数字(インドネシア)	ᮘ	ᮙ	ᮚ	ᮛ	ᮜ	ᮝ	ᮞ	ᮟ	ᮠ	ᮡ
<input type="radio"/> オスマニヤ数字(ソマリア)	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
<input type="radio"/> バムン数字(カメルーン)	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
<input type="radio"/> ソコ数字(ギニア)	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
<input type="radio"/> ヴァイ数字(リベリア)	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9

実際の画面では、マウスのポインタを重ねれば拡大表示されます。  
 フォントのインストール状況によっては、いくつかの種類の文字は正しく表示されない場合があります。  
 これは一般的なフォントでは対応していない文字を含むためです。現行OSではUnicodeへの対応が進んで  
 いますので、フォントさえ揃えれば表示されます。対応フォントについては別資料をご参照ください。

○ 上付き数字	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
○ 下付き数字	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
○ 全角数字	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
○ 太字	<b>0</b>	<b>1</b>	<b>2</b>	<b>3</b>	<b>4</b>	<b>5</b>	<b>6</b>	<b>7</b>	<b>8</b>	<b>9</b>
○ 二重線	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
○ ゴシック体	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
○ 太字のゴシック体	<b>0</b>	<b>1</b>	<b>2</b>	<b>3</b>	<b>4</b>	<b>5</b>	<b>6</b>	<b>7</b>	<b>8</b>	<b>9</b>
○ 等幅フォント	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
○ 漢数字・常用(小写)	〇	一	二	三	四	五	六	七	八	九
○ 漢数字・太字(日本)	零	壹	貳	参	肆	五	六	七	八	九
○ 漢数字・大写(繁体字)	零	壹	貳	參	肆	伍	陸	柒	捌	玖
○ 漢数字・大写(簡体字)	零	壹	貳	叁	肆	伍	陆	柒	捌	玖
○ 蘇州号碼(縦式)	〇	一	二	三	四	五	六	七	八	九
○ 蘇州号碼(横式)	〇	一	二	三	四	五	六	七	八	九
○ ハングル数字	영	일	이	삼	사	오	육	칠	팔	구
○ チュノム数字(ベトナム)	๐	๑	๒	๓	๔	๕	๖	๗	๘	๙
○ ソラング・ソンペン数字	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
○ フダーワーディー数字	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
○ モーディー数字	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
○ ティルフター数字	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
○ シンハラ・リト数字	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
○ ムロ数字	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
○ タイ・ライン数字	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
○ ワラング・クシティ数字	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
○ パハウ・フモン数字	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
○ アーホム数字	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
○ ローマ数字		I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX
○ ローマ数字		i	ii	iii	iv	v	vi	vii	viii	ix
○ エーゲ数字		ι	ϰ	Ϡ	ϡ	Ϣ	ϣ	Ϥ	ϥ	Ϧ
○ ギリシア数字・アッティカ式		ι	ϰ	Ϡ	ϡ	Ϣ	ϣ	Ϥ	ϥ	Ϧ
○ ギリシア数字・アッティカ式		ι	ϰ	Ϡ	ϡ	Ϣ	ϣ	Ϥ	ϥ	Ϧ
○ ギリシア数字・イオニア式		Α	Β	Γ	Δ	Ε	Ζ	Η	Θ	
○ ギリシア数字・イオニア式		α	β	γ	δ	ε	ζ	η	θ	
○ コプト数字		Ⲁ	Ⲃ	Ⲅ	Ⲇ	Ⲉ	Ⲋ	Ⲍ	Ⲏ	Ⲑ
○ コプト数字		Ⲁ	Ⲃ	Ⲅ	Ⲇ	Ⲉ	Ⲋ	Ⲍ	Ⲏ	Ⲑ
○ ゴート数字		ⱀ	ⱂ	ⱄ	ⱆ	ⱈ	ⱊ	ⱌ	ⱎ	ⱐ
○ グルジア数字(ジョージア)		Ⴀ	Ⴁ	Ⴂ	Ⴃ	Ⴄ	Ⴅ	Ⴆ	Ⴇ	Ⴈ
○ グルジア数字(ジョージア)		Ⴀ	Ⴁ	Ⴂ	Ⴃ	Ⴄ	Ⴅ	Ⴆ	Ⴇ	Ⴈ
○ グルジア数字(ジョージア)		Ⴀ	Ⴁ	Ⴂ	Ⴃ	Ⴄ	Ⴅ	Ⴆ	Ⴇ	Ⴈ

この画像で暗めのグレーの部分は、開発時点で一般的なフリーフォントが見つからなかった部分で当アプリ専用の「特定外字」として定義したコードポイントを利用して

字形を定義した外字ファイルと外字用に選んだフォントをリンクさせることで表示しています。

(特定外字は以下の画像の一部でも使っている箇所があります。)

特定外字について詳しくは別資料をご参照ください。

(名称変更「ソラング・ソンペン数字」←「ソラ・ソンペン数字」、「ティルフター数字」←「ティルフータ数字」)



○ アルメニア数字		Ա	Բ	Գ	Դ	Ե	Զ	Է	Ը	Թ
○ アルメニア数字		ա	բ	գ	դ	ե	զ	է	ը	թ
○ キリル数字		А	В	Г	Д	Е	З	И	Θ	
○ キリル数字		а	в	г	д	е	з	и	е	
○ グラゴル数字		ⴌ	ⴍ	ⴎ	ⴏ	ⴐ	ⴑ	ⴒ	ⴓ	ⴔ
○ グラゴル数字		ⴒ	ⴓ	ⴔ	ⴖ	ⴘ	ⴚ	ⴜ	ⴞ	ⴠ
○ ゲエズ数字(エチオピア)		፩	፪	፫	፬	፭	፮	፯	፰	፱
○ ヘブライ数字		א	ב	ג	ד	ה	ו	ז	ח	ט
○ アブジャド数字		ⱥ	ⱦ	Ⱨ	ⱨ	Ⱪ	ⱪ	Ⱬ	ⱬ	Ɑ
○ アブジャド数字		ⱥ	ⱦ	Ⱨ	ⱨ	Ⱪ	ⱪ	Ⱬ	ⱬ	Ɑ
○ 点字数字		⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠
○ エジプト・ヒエログリフ数字		𐎠	𐎡	𐎢	𐎣	𐎤	𐎥	𐎦	𐎧	𐎨
○ エジプト・ヒエログリフ数字		𐎠	𐎡	𐎢	𐎣	𐎤	𐎥	𐎦	𐎧	𐎨
○ エジプト・ヒエログリフ数字		𐎠	𐎡	𐎢	𐎣	𐎤	𐎥	𐎦	𐎧	𐎨
○ エジプト系数数		𐎠	𐎡	𐎢	𐎣	𐎤	𐎥	𐎦	𐎧	𐎨
○ エジプト系数数		𐎠	𐎡	𐎢	𐎣	𐎤	𐎥	𐎦	𐎧	𐎨
○ エジプト系数数		𐎠	𐎡	𐎢	𐎣	𐎤	𐎥	𐎦	𐎧	𐎨
○ エジプト系数数		𐎠	𐎡	𐎢	𐎣	𐎤	𐎥	𐎦	𐎧	𐎨
○ エジプト系数数		𐎠	𐎡	𐎢	𐎣	𐎤	𐎥	𐎦	𐎧	𐎨
○ エジプト系数数		𐎠	𐎡	𐎢	𐎣	𐎤	𐎥	𐎦	𐎧	𐎨
○ コプト・エバクト数字		Ⲁ	ⲁ	Ⲃ	ⲃ	Ⲅ	ⲅ	Ⲇ	ⲇ	Ⲉ
○ ルーミー数字記号		۞	۞	۞	۞	۞	۞	۞	۞	۞
○ ルーミー数字記号		۞	۞	۞	۞	۞	۞	۞	۞	۞
○ ルーミー数字記号		۞	۞	۞	۞	۞	۞	۞	۞	۞
○ ルーミー数字記号		۞	۞	۞	۞	۞	۞	۞	۞	۞
○ ルーミー数字記号		۞	۞	۞	۞	۞	۞	۞	۞	۞
○ ルーミー数字記号		۞	۞	۞	۞	۞	۞	۞	۞	۞
○ 楔形数字		𐎠	𐎡	𐎢	𐎣	𐎤	𐎥	𐎦	𐎧	𐎨
○ 楔形数字		𐎠	𐎡	𐎢	𐎣	𐎤	𐎥	𐎦	𐎧	𐎨
○ 楔形数字		𐎠	𐎡	𐎢	𐎣	𐎤	𐎥	𐎦	𐎧	𐎨
○ 楔形数字		𐎠	𐎡	𐎢	𐎣	𐎤	𐎥	𐎦	𐎧	𐎨
○ 楔形数字		𐎠	𐎡	𐎢	𐎣	𐎤	𐎥	𐎦	𐎧	𐎨
○ 楔形数字		𐎠	𐎡	𐎢	𐎣	𐎤	𐎥	𐎦	𐎧	𐎨
○ 楔形数字		𐎠	𐎡	𐎢	𐎣	𐎤	𐎥	𐎦	𐎧	𐎨
○ 古代ペルシア数字		𐎠	𐎡	𐎢	𐎣	𐎤	𐎥	𐎦	𐎧	𐎨
○ 古代南アラビア数字		𐎠	𐎡	𐎢	𐎣	𐎤	𐎥	𐎦	𐎧	𐎨

上図で一部の文字が正しく見えていないのは、次のような理由によるものです。

エジプト・ヒエログリフ数字…フォントの線が細いため小さめの枠内では十分な太さで表示されない。

楔形文字…縮小してはいるものの、そもそもの字形が横長のため、小さめの枠の横幅では不十分。

どちらも実際の画面ではマウスオーバーすれば拡大表示されますので、文字自体はご確認いただけますがキートップに表示する際にも同様の問題に突き当たりますので、これらの文字の使用はお勧めできません。

○ レント系数数		/	//	///	////	/////	////	/////	/////
○ レント系数数		/	V	W	UV	WV	UVW	VUV	UVWV
○ レント系数数		J							
○ レント系数数		l	ll	lll	llll	lllll	lllll	lllll	lllll
○ レント系数数		/	μ	μμ	×	1×	μ×	μ×	1×
○ レント系数数		/	//	///	/	//	//	///	///
○ レント系数数		/	V	W	/	V	W	///	///
○ レント系数数		J							///
○ レント系数数		J							///
○ レント系数数		.	μ	μμ	μμ	μμ	μμ	μμ	μμ
○ レント系数数			μ	μμ	×	1×	μ×	μ×	1×
○ レント系数数		J							///
○ レント系数数									
○ レント系数数									
○ レント系数数									
○ ブラフミー系数数		-	=	≡	+	†	ε	∫	∫
○ ブラフミー系数数	.	\	२	३	४	५	६	७	८
○ ブラフミー系数数		-	=	≡	+	†	ε	∫	∫
○ ブラフミー系数数	.	\	२	३	४	५	६	७	८
○ ブラフミー系数数		०	१	२	३	४	५	६	७
○ ブラフミー系数数	५	६	७	८	९	०	१	२	३
○ アリヤバータ数字		क	ख	ग	घ	ङ	च	छ	ज
○ カタパヤ-ディ数字	अ	क	ख	ग	घ	ङ	च	छ	ज
○ カタパヤ-ディ数字	३	क	थ	ग	घ	ङ	च	छ	ज
○ カタパヤ-ディ数字	४	व	ख	ग	घ	ङ	च	छ	ज
○ カタパヤ-ディ数字	५	६	७	८	९	०	१	२	३
○ カタパヤ-ディ数字	४	५	६	७	८	९	०	१	२
○ カタパヤ-ディ数字	५	६	७	८	९	०	१	२	३
○ カタパヤ-ディ数字	५	६	७	८	९	०	१	२	३
○ カタパヤ-ディ数字	५	६	७	८	९	०	१	२	३
○ カタパヤ-ディ数字	५	६	७	८	९	०	१	२	३
○ カタパヤ-ディ数字	५	६	७	८	९	०	१	२	३
○ ドラヴィダ系数数	०	१	२	३	४	५	६	७	८
○ ドラヴィダ系数数	०	१	२	३	४	५	६	७	८
○ ワラング・クンティ数字	०	१	२	३	४	५	६	७	८
○ パハウ・フモン数字	I	U	3	U	θ	3	C	K	K
● マンデ数字			←	→	8	9	9	9	f
● 算木数字	○						T	T	T
● 算木数字	○	-	=	≡	≡	≡	⊥	⊥	⊥
● マヤ数字	○	.	..	...	....	.....	.....	.....	.....
● マヤ数字	○	.	..	...	....	.....	.....	.....	.....
● マヤ数字	○	.	..	...	....	.....	.....	.....	.....
● マヤ数字	○	.	..	...	....	.....	.....	.....	.....
● マヤ数字	○	.	..	...	....	.....	.....	.....	.....
● マヤ数字	○	.	..	...	....	.....	.....	.....	.....

<input type="radio"/> エトルリア系数字		I	II	III	IIII	Λ	IA	IIA	IIIA	IIIA
<input type="radio"/> エトルリア系数字		I	II	III	IIII	Λ	IA	IIA	IIIA	IIIA
<input type="radio"/> エトルリア系数字	◇	I	II	III	IIII	V	IV	IV	IIIV	IIIV
<input type="radio"/> エトルリア系数字		I	II	III	IIII	/	I/	II/	III/	IIII/
<input type="radio"/> マッピング	①	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
<input type="radio"/> マッピング	①	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
<input type="radio"/> マッピング		ひ	ふ	み	よ	い	む	な	や	こ
<input type="radio"/> マッピング	王	王	王	王	王	王	王	王	王	王
<input type="radio"/> マッピング		A	B	C	D	E	F	G	H	I
<input type="radio"/> マッピング		a	b	c	d	e	f	g	h	i

なお、数値表現の種類によっては、1桁の数値を表現するのに複数の文字が使われる場合もあります。  
 （[ローマ数字]、[ギリシア数字・アッティカ式]、[レバント系数字]、[マヤ数字]の一部、[エトルリア系数字]など）

そのような場合にキートップへ表示するには  
 電卓画面の横幅を広くするなどの対応が必要になることがあります。

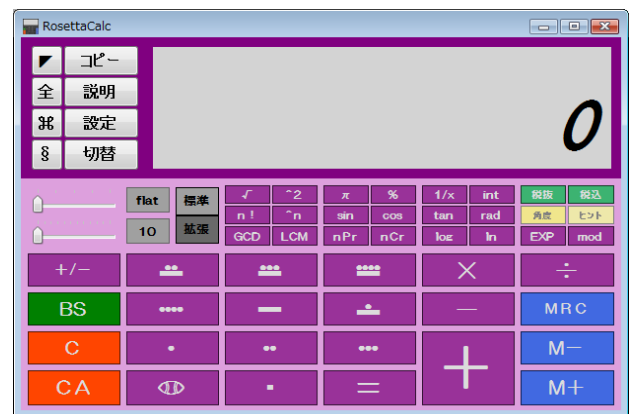
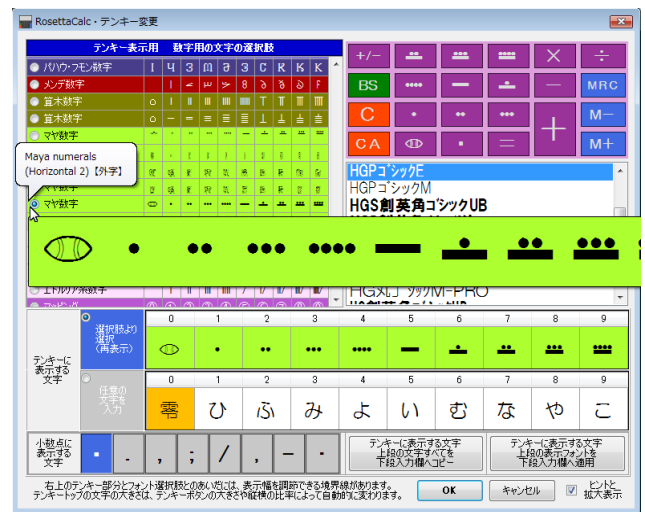
本項の選択肢は、当アプリで可能な表現の類型を示したのものにもなっており  
 キートップにはすべてを正しく表示できるとは限りませんのでご注意ください。

以下は簡単な設定例です。（右側は入力した例です。）



電卓の表示域には影響しません。表示域の文字は「数字」「漢字文化圏」「記数法」などで選びます。

ゼロを持たない数や特定外字、さらには自由な配色と組み合わせた設定も可能です。（右側は特定外字）



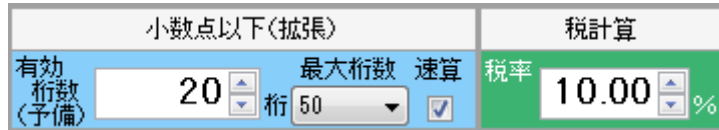
キートップでは、視認性を高める必要から、文字を「大きめ」に表示しています。

多くのフォントでは大丈夫と思われませんが、フォントに定義される文字の大きさの違い、あるいは一部の数値表現での1桁の表現に用いる文字数などにより、個々のキートップの面積では枠からはみ出teてしまて表示しきれない場合がありますのでご了承ください。

（電卓画面自体の大きさを拡げるとキートップの面積も拡がりますが、文字の大きさも拡がります）



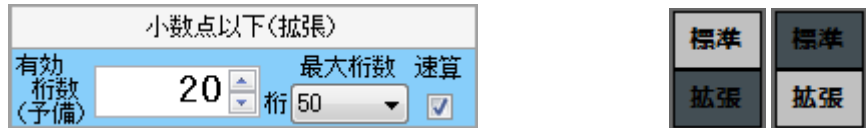
◆◆ 数値関連の設定 ———— 「小数点以下（拡張）」、「税計算」



● 「小数点以下（拡張）」

この項目は事実上、小数部の「多桁計算」（多倍長演算）についての設定となります。

実際に多桁計算をおこなう場合は、電卓画面の計算方式の切替ボタンで「拡張」を選択します。  
 計算方式が「標準」の場合は、計算に使っている「型」の違いにより、多桁計算はおこなわれません。



多桁計算（多倍長演算）を知るには、電卓やパソコンなど「機械でおこなう計算」の基本的な仕組みを知っておくと便利です。

普通の計算について見ていくと、ごく簡単な「割り算」でも、 $[1 \div 3]$   $[9 \div 7]$   $[13 \div 11]$  などのように「割り切れない」ことが「よく」あります。これを「使える数」にするには、計算を「途中で打ち切る」ことが必要です。

実際の電卓や表計算などのパソコンソフトでは、計算のための入れ物として「型」が決まっており型が持つ桁数により端数が「桁落ち」して、残った部分だけが使えるようになっています。

つまり、実際の電卓等では（端数処理なしの場合） $[1 \div 3 = 0.3333333333]$   $[9 \div 7 = 1.285714285]$  などのように型で決まった桁数に強制的に区切られるため、そのままでも「使える数」になっている、ということです。

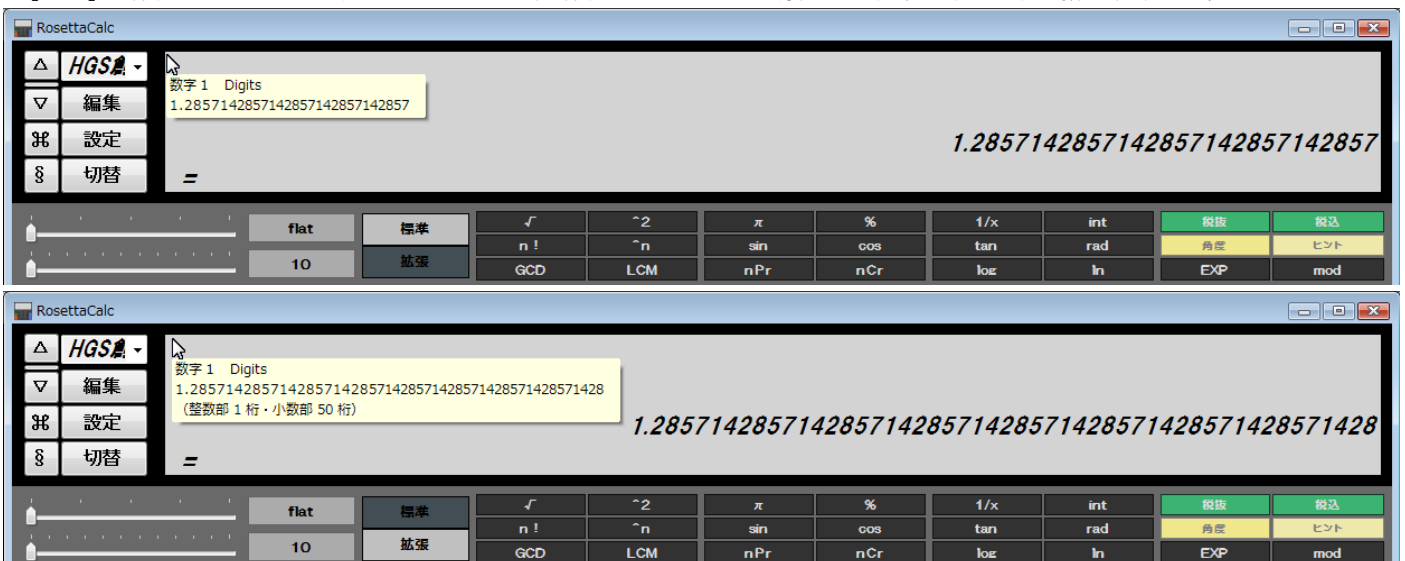
Windowsに「アクセサリ」として付属する「電卓」の場合は、「型」の持つ計算精度が若干高くなっており  $[9 \div 7 = 1.2857142857142857142857142857143]$  のようになります。これを試しに同じような部分で区切ってみると  $[9 \div 7 = 1.285714 285714 285714 285714 \dots]$  のような繰り返し部分を持つ「循環小数」だとわかります。（ $[1 \div 3 = 0.33333333333333333333333333333333\dots]$  も 1 桁の繰り返しを持つ循環小数だと捉えることができます。）

本来的には、「循環小数」や「無理数」（2の平方根「ルート2」など）といった「割り切れない値」を求める場合は小数部が「無限に続く」ということなので、計算も（本来的には）「永久に終わらない」ということとなります。

もちろん、そのままではいつまでたっても答えが得られませんから、現実には、あらかじめ桁数や時間などの「どこかで打ち切る」というストッパー役を決めておいてから処理する、という方法が、いわば「定石」になっています。

以上を踏まえておくと、以下の理解が楽になります。

次の例は、当アプリの電卓画面の計算方法を[標準]と[拡張]で切り替え、それぞれ  $[9 \div 7 =]$  を計算してみたところです。  
 [標準]は「10進数型・浮動小数点数」の限界までですが、[拡張]（多倍長整数型）では、次項「最大桁数」の初期値 [50] 桁です。  
 [flat]（端数処理なし）が選択されているため、端数処理をおこなう場合の小数部の有効桁数の指定(10)は無視されています。



（電卓画面は横方向に拡大しており、左上の操作部を[ $\$$ ]ボタンで切り替え、[ $\nabla$ ]ボタンで文字の大きさを小さくしています。）

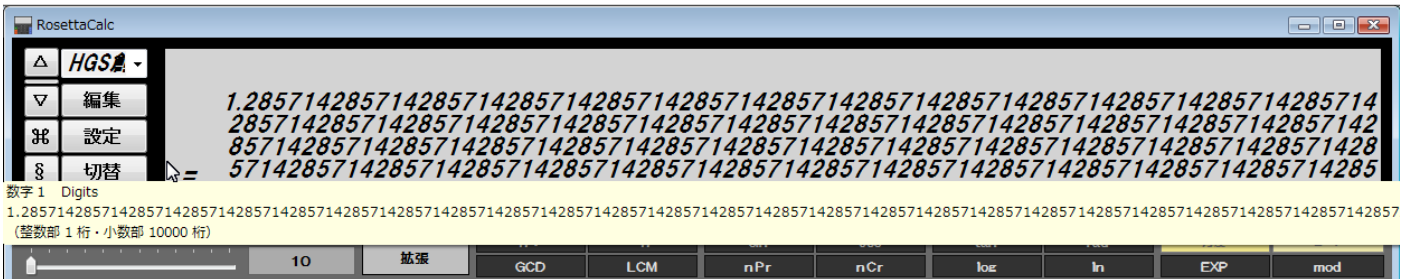
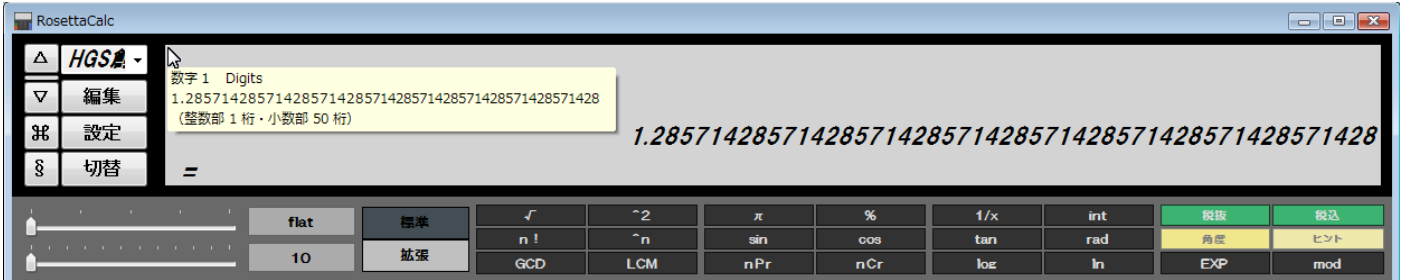
- 「最大桁数」は、小数部で多桁計算（多倍長演算）をおこなう際の、ストッパーの役割を持ちます。

当アプリでは明示的に「小数部の桁数を制限」することにより、計算をおこなう深さを限定し計算にかかる待ち時間を抑制して、計算が必ず「いつかは終わる」ようにしています。  
「最大桁数」は、「5桁」～「10万桁」の範囲で、コンボボックスにより切替できます。

最大桁数	最大桁数
5	100000

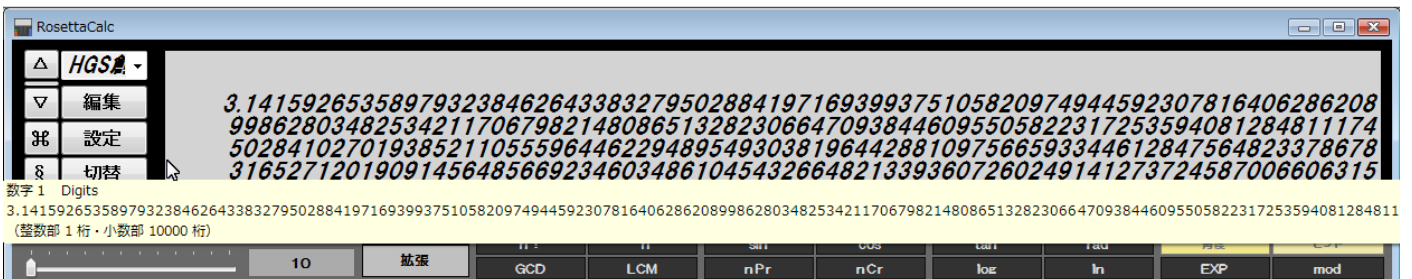
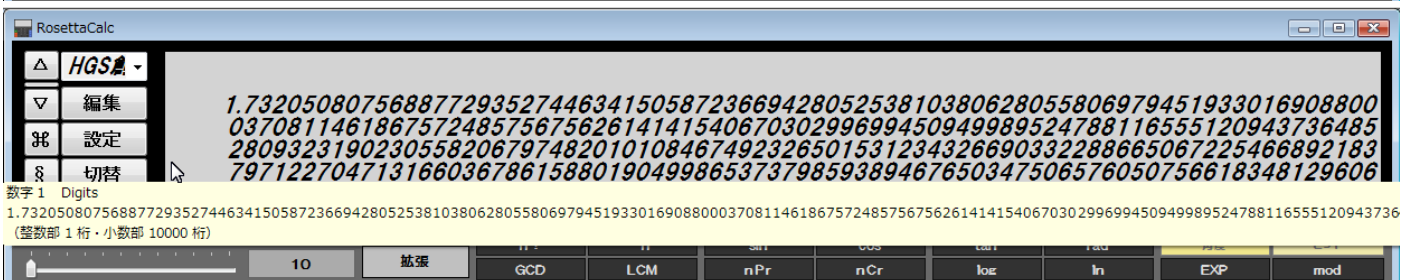
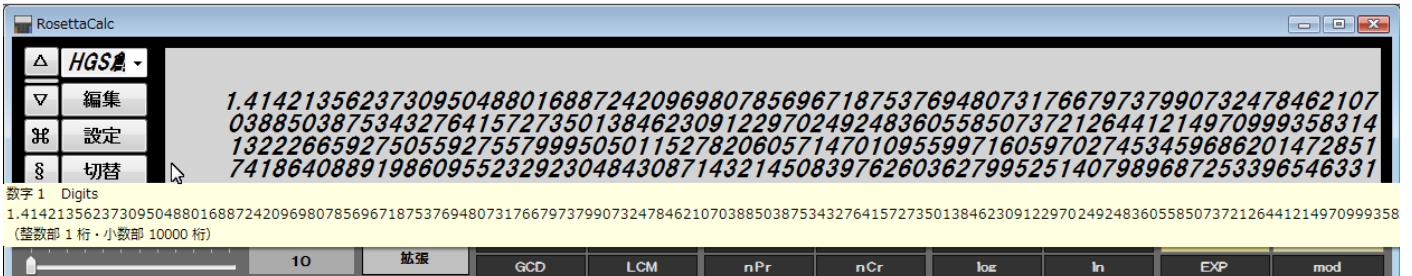
次の例は、電卓画面の計算方式に多桁計算の「拡張」を選び [flat]（端数処理なし：有効桁数(10)の指定は無視されます）で最大桁数を、前項と同じ初期値の「50桁」、および「1万桁」に変更した場合で、それぞれ [9 ÷ 7 =] を計算しています。

最大桁数	最大桁数
50	10000



※最大桁数で上限の「10万桁」を選んだ場合は、計算はできますが、表示域に入りきらず表示されません。（詳しくは、電卓画面の説明書をご参照ください。）

以下はご参考までに「1万桁」の設定で、無理数の「ルート2」「ルート3」「円周率」を求めた場合です。



（内部的な計算手順には、平方根では「ニュートン法」、円周率では「サラミン・プレント法」などを用いて求めています。）

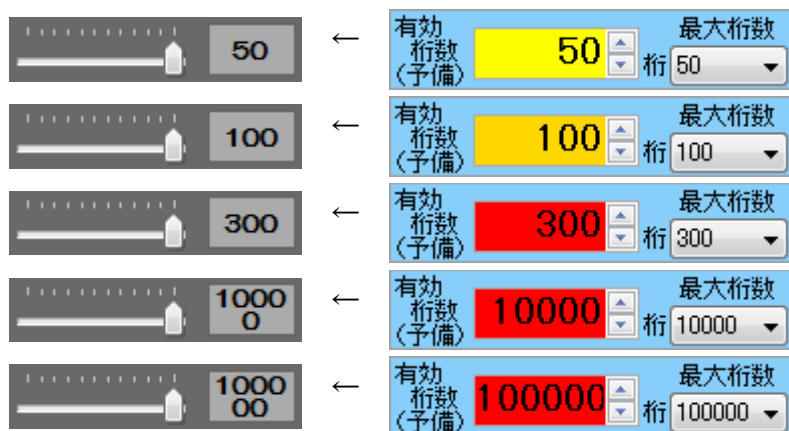


- 「最大桁数」には、小数部で端数処理をおこなう場合の「有効桁数（予備）」に対する「段階的なストッパー」の役割もあります。

最大桁数

50

「最大桁数」が初期値の [50] のままでは、小数部での端数を処理する「有効桁数（予備）」欄も [50] が上限ですが「最大桁数」を拡げることにより、「有効桁数（予備）」欄の上限は変更でき、電卓での右端位置にも反映されます。



前述のように、当アプリでの 小数部の「最大桁数」は、「10万桁」を上限にしています。

ただし、小数部だけで10万桁にも及ぶほどの計算には、かなりの時間を要します。

たとえば「平方根」の計算には「割り算」が含まれていますので、単純な「ルート2」の計算であっても小数部の最大桁数を「10万桁」と指定した場合は「30分前後」の時間を要するようになります（当方の環境の場合）。

特に「端数処理」する場合、切り上がる際には、有効桁数の末尾に「プラス1」する処理が加わります。

[0.999999999999...] のような末尾に「プラス1」する場合は順に繰り上がるため、さらに時間がかかります。

また別稿での説明のように、小数部10万桁では、計算はできていますが、表示域には入りきらず表示されません。

したがって当アプリでは、特に必要なとき以外は、不用意に多桁計算をおこなわないようにするために安全装置としても機能する「段階的なストッパー」を設けて、安全性を高めるようにしています。

当アプリでは（多桁計算での端数処理をおこなう場合のみですが）「速算」のチェックが外された場合（下記）を基準に

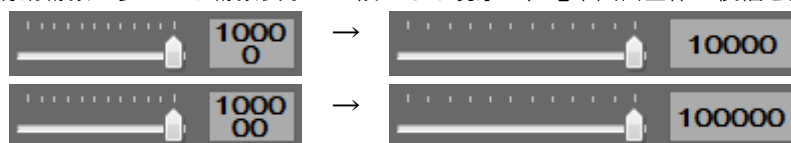
「すこし待たせる」ような範囲（50桁以上）は **黄色**

「多少は待たせる」ような範囲（100桁以上）は **オレンジ色**

「かなり待たせる」ような範囲（300桁以上）は **赤色** の表示にして、利用者に注意を促すことにしています。

計算の速度は、当アプリの設定状況や、お使いのパソコンの基本性能、その時々への負荷の状況等により異なります。

（ちなみに電卓画面で有効桁数の多さから桁数表示が二段になる現象は、電卓画面全体の横幅を拡げれば解消できます。）



- 「速算」のチェックボックスは、多倍長演算における計算手順（型）の切り替えを示します。

速算

「型」の切り替えは、電卓画面（標準／拡張）にもありますが、こちらは「拡張」の型を、さらに切り替えるものです。速算のチェックを外すと、計算が「非常に遅く」なりますので、通常は「チェックを入れたまま」にしておいてください。

当アプリでの多桁計算（多倍長演算）には「多倍長整数型」を利用していますが、当アプリ旧バージョン向けの多倍長整数型が使えない場合への対応や、計算精度の確認のために、特別に用意した計算手順を使うためのものです。（計算速度の比較をしたい場合でも、小数部の桁数は減らして計算するよう、強くお勧めします。）

多倍長演算は、当アプリではいつでも可能ですが、特に必要なときのみ利用されることをお勧めします。

また、これらの制限は「特に割り算で小数部が割り切れずに時間がかかり過ぎる現象の回避」が目的で、「小数」とは逆向きの「大数」（巨大数）に関しては、上限を設けていません。

このため、簡単・急激に桁数が増えると予想される「冪」や「階乗」などでは、処理に時間がかかったり当アプリが異常終了してしまうなどの事態も起こり得ますので、節度ある利用をお願いいたします。

（警告のメッセージが出る場合もありますが、それを無視して進むこともできるようになっていますのでご注意ください。）

## ● 「税計算」

消費税などにかかる「税率」を設定できます。

この税率は、電卓画面で中段右上にある「税抜」「税込」ボタンを用いた計算の際に利用されます。



「税抜」… 元の額から税を抜いた「税抜額」（本体価格）を求めます。  
（元の額は「税込額」であることを前提にして扱います）

「税込」… 元の額に税を足した「税込額」を求めます。  
（元の額は「税抜額」（本体価格）であることを前提にして扱います）

（「税抜」「税込」ボタンの機能については、電卓画面の説明書をご参照ください。）

税率は、百分率（パーセント）で設定します。

税率は国や税目によって異なりますので、目的に合わせて設定してください。

国によっては税率に小数点以下まで指定されますので  
念のため 小数第2位（0.01%）まで設定できるようにしています。

（利便性を考慮し、上下のボタンで変更すると 小数第一位の0.1%ごとに上下するようにしています。  
小数第2位（0.01%）が必要な場合は、キーボード等から直接入力してください。）

初期値は、当アプリの開発時点における、日本の消費税率「10%」としています。

日本の消費税率は、2019年10月に「8%」から「10%」に改定されました。  
当アプリでは、バージョンアップ（クリーンインストール）すれば対応できますが  
特にバージョンアップせずとも、税率の数値を変更して、ご自身による設定変更も可能です。



計算例 (より明確化するため、例示における税率は「8%」にしています。)



<p>(税率8%の場合)</p> <p>「元」の額 [ 1,080 ] ※税込額と捉える</p> <p>「税抜」ボタン</p> <p>[ 抜 ] (税抜額=本体価格) [ 1,000 ]</p>	<p>「税抜」の流れ</p>  <p>↓ 税抜 ↓</p> 	<p>「税込」の流れ (税率8%の場合)</p> <p>「元」の額 [ 1,000 ] ※税抜額(本体価格) と捉える</p> <p>「税込」ボタン</p> <p>[ 込 ] (税込額) [ 1,080 ]</p>	 <p>↓ 税込 ↓</p> 
<p>「税抜」ボタン</p> <p>[ 税 ] (税額) [ 80 ]</p> <p>「税抜」ボタン</p> <p>「元」の額 [ 1,080 ] (税込額)</p>	<p>↓ 税抜 ↓</p>  <p>↓ 税抜 ↓</p> 	<p>「税込」ボタン</p> <p>[ 税 ] (税額) [ 80 ]</p> <p>「税込」ボタン</p> <p>「元」の額 [ 1,000 ] (税抜額=本体価格)</p>	<p>↓ 税込 ↓</p>  <p>↓ 税込 ↓</p> 

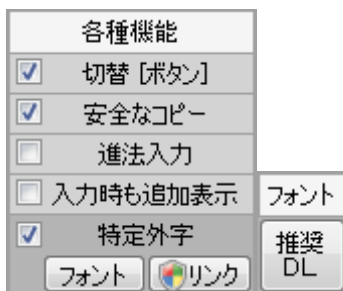
(上の例ではわかりやすい金額での比較にするため、税率を8%にしており、税額が揃うように元の額を変えています。)

以上のように、「税抜」または「税込」のボタンを押す度に

(元の額) → (「税抜額」または「税込額’) → (税額) → (元の額)

の順で、表示が切り替わるようになっています。

◆◆ 各種機能 および フォント



● 「切替」 : [ボタン] / [コンボボックス]

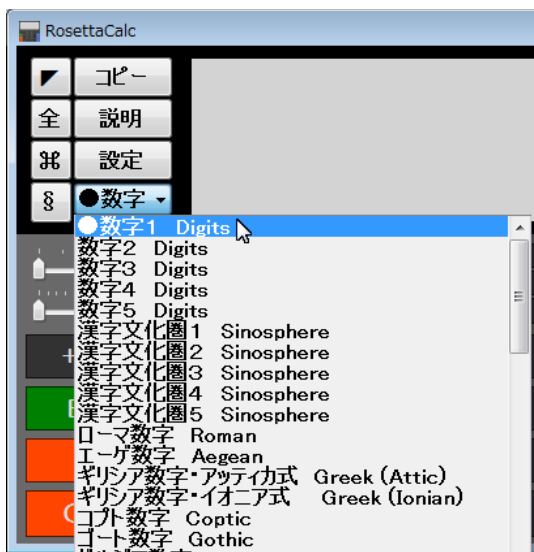
このチェックボックスでは、チェックの有無に応じて、次のように表示が切り替わります。



この変化は、電卓画面の左上にある、数値表現の「切替」機能が「ボタン」になっているのを「コンボボックス」に切り替えて使える、ということを示しています。

数値表現はあらかじめ必要なものだけを選んでおくこともできますが、たくさん選んでおいた場合には特定の数値表現にたどり着くまでに、ボタンだと順番に何度も押して切り替えて確認する必要があります。(数値表現の切替等については別項をご参照ください。)

それに対してコンボボックスであれば、次の画像のように選択肢として使えるようになるので特定の数値表現へ直接切り替えできるため、順序は問われなくなり、便利になる場合があります。(先頭の●印は「入力用」の選択となっていることを示しています)



ご利用状況に応じて、便利なほうを選んでお使いください。

● 「安全なコピー」



文字列をコピーする際、ここにチェックが入っていると、一部の記数法で発生する文字の組合せ（サロゲート文字とダイアクリティカルマークの併用）が検出された時に、コピー機能を制限して他のアプリ等に貼り付けをおこなう際の、安全性を向上させます。（通常はチェックを入れたままにしておきます。）

● 「進法入力」

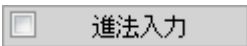


当アプリの数値表現では、「進法」ページで指定する「基数法（n進数）」において「2進数」から「64進数」までのすべての基数による表現ができますが、入力については通常の「十進法」以外に「二進法」「八進法」「十六進法」の3通りのみを用意しています。

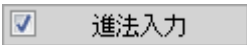
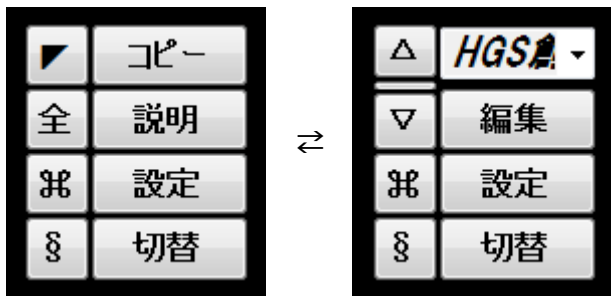
これらを実際に入力する際には、通常の「十進法」で使う [0]～[9] のテンキーだけでは足りないキーや使わないキーが出てくることになります。

- ・ 十進法では0～9の数字すべてを使います。（←通常の方法）
- ・ 二進法では0と1の数字だけを使い、2～9は使いません。
- ・ 八進法では0～7の数字だけを使い、8と9は使いません。
- ・ 十六進法では0～9の数字すべてに加え、A～Fの文字も使います。

このキー配置を実現するため、当アプリでは、このチェックボックスにチェックを入れておくと電卓画面左上の「§」ボタンによる遷移が、通常の2通りから3通りに増えて進法入力のコンボボックスから入力様式を選ぶことができるようになります。



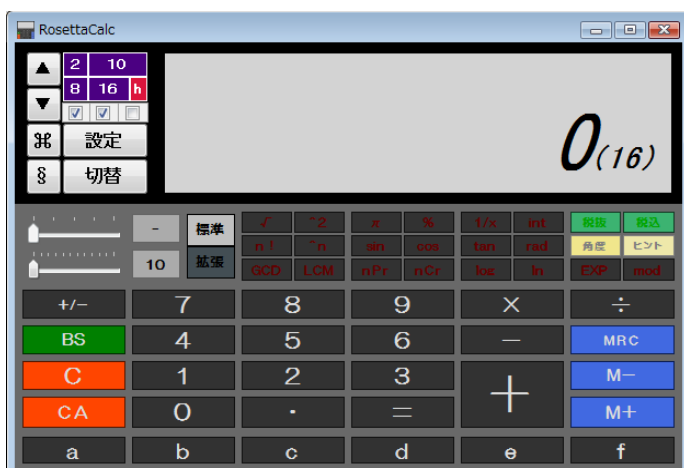
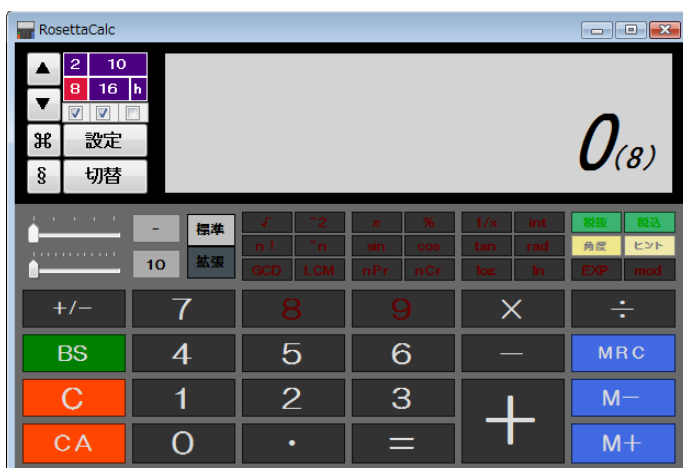
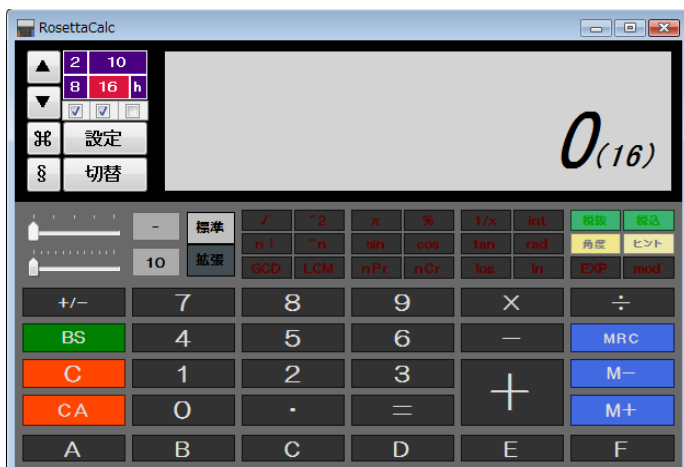
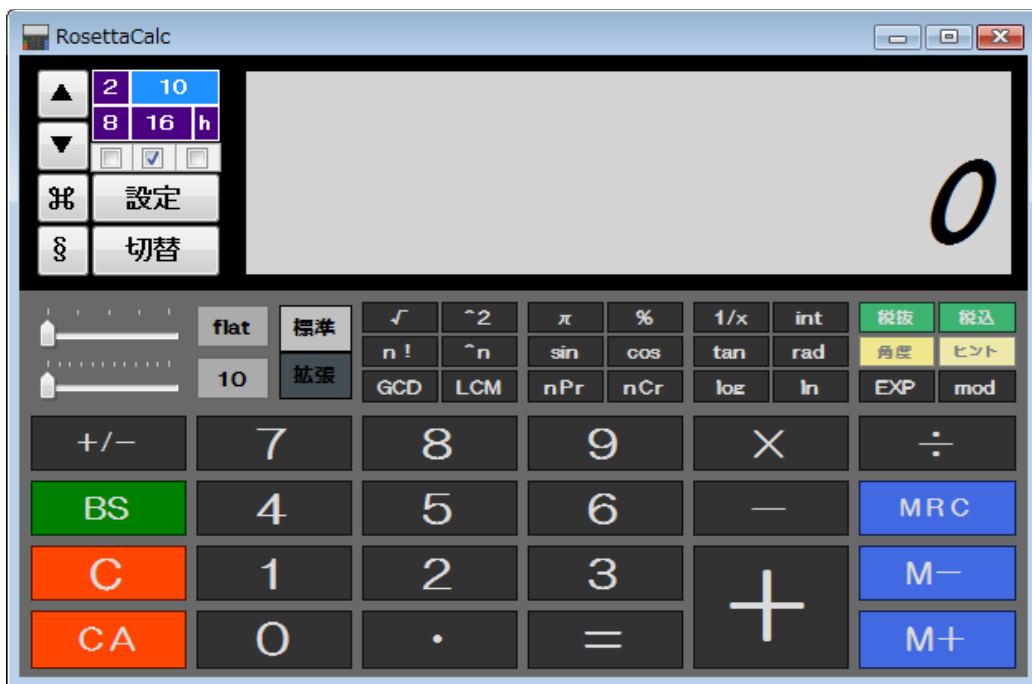
（チェックなし・「§」ボタンによる遷移は2通り）



（チェックあり・「§」ボタンによる遷移は3通り）



進法入力時の電卓画面



- 十進法 [0][1][2][3][4][5][6][7][8][9]
- 二進法 [0]と[1]のみ
- 八進法 [0][1][2][3][4][5][6][7]
- 十六進法 (大文字) [0][1][2][3][4][5][6][7][8][9][A][B][C][D][E][F]
- 十六進法 (小文字) [0][1][2][3][4][5][6][7][8][9][a][b][c][d][e][f]

● 「入力時も追加表示」

入力時も追加表示

通常「入力用」に選んだ数値表現においては、入力時の操作をわかりやすくシンプルにおこなうために入力中のときには、数値の前後につける追加文字列の「追加」指定は無視されるようにしていますが入力時においても「追加」がおこなわれた状態のままで操作したい場合には、ここにチェックを入れます。

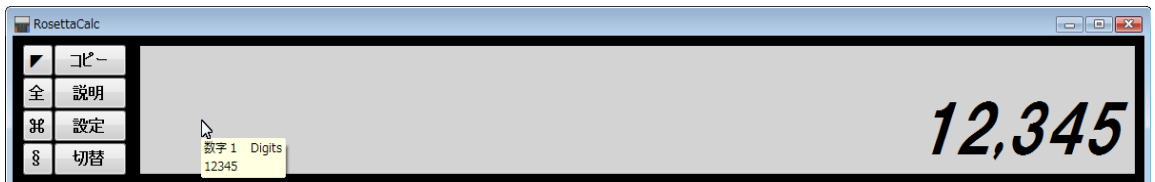
たとえば「数字・1」を「基本」ページで「入力用」として選んでおり「追加」にチェックを入れた上でさらに「追加」ページを下図のように設定していたとします。

すべて <input type="checkbox"/>	表示切替			<input type="checkbox"/> すべて
入力用	表示切替用 (順次切替)	変換例 (例示をダブルクリックすると説明)		追加
<input checked="" type="radio"/>	<input type="checkbox"/> 数字・1	-123,456,789.012	フォント	設定 <input checked="" type="checkbox"/> 設定

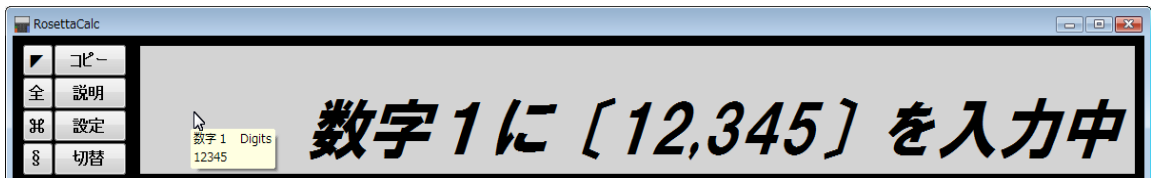
日本語音節	3桁マッピング	追加			MS UI Gothic			
符号全初期化	今回分リセット	数値の前後につける マイナス符号 および 追加文字列			文字列全消去 <input type="checkbox"/> すべて <input type="checkbox"/>			
表示切替項目	符号	位置	あき	【左2】	【左1】	【右1】	【右2】	追加
数字・1	-	左1内	なし	数字1に	[	]	を入力中	<input checked="" type="checkbox"/>

この状態を有効にして、電卓画面で [12345] と入力していく時点の表示の違いは、次のようになります。

入力時も追加表示 (チェックなし・追加表示なし)



入力時も追加表示 (チェックあり・追加表示あり)



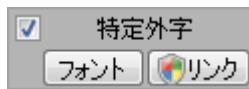
この効果は実際に入力していく段階であらわれますので、入力中の状況を他の人に見てもらえるなどのパフォーマンス的な利用には向いていると思われます。

なお追加文字列の「追加」は「表示切替用」の数値表現に選ばれている場合には必ずおこなわれますので特に「入力時にも追加表示」の指定をしなくても、「入力用」と重複して「表示切替用」にも選んだ上で数値表現の「切替」をおこなえば、入力時のシンプルな操作性を損なうことなく入力用の数値表現に対する追加文字列の「追加」がおこなわれた表現ができることになります。

<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 数字・1	123,456,789.012	フォント	設定 <input checked="" type="checkbox"/> 設定
----------------------------------	--	-----------------	------	---



● 「特定外字」 「フォント」 「リンク」



パソコンにおける個別の文字の表示は、字形表現が定義された「フォント」に依っています。

当アプリでは数値表現の文字が正しく表示されるよう

利用可能なフリーフォントに適時切り替わるようにして多数使っておりますが

文字が Unicode に登録されてからまだ日が浅いものなどについては、フォントが無い場合もあります。

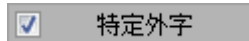
フリーフォントが見つればバージョンアップで対応する予定ですが、見つからなかったものについては当アプリでは Unicode の「私用領域」区画の一部を利用して「外字」として独自に字形を定義しており表示用にはフォントを経由して、代用的に表示したものを、数値表現に使えるようにしています。

この当アプリ専用の外字を当アプリでは「特定外字」と呼ぶことにしています。

・ 「特定外字」 (チェックボックス)

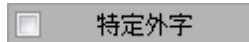
このチェックボックスが意味するところは、「外字」を使うのかどうか、つまり

- ・ Unicode の「私用領域」区画の一部のコードポイントを利用した「外字」としての表示にする



あるいは

- ・ Unicode にて定義された文字本来のコードポイントを利用して (対応フォントを利用して) 表示する



の選択をおこなう、ということです。

なお特定外字では利用を簡便にするために複数の数値表現の文字をまとめて定義しているため数値表現ごとに外字の利用の有無を個別に選択することはできなくなっています。

Unicode 側の対応フォントが見つければ特定外字のチェックを外して表示することが可能となりますが

他の特定外字は外字としての表示ができなくなりますので、表示切替用の選択を変更するなどの対応をしてください。

また、当アプリでは複数の数値表現の文字が重複して定義されることのないようにしているため

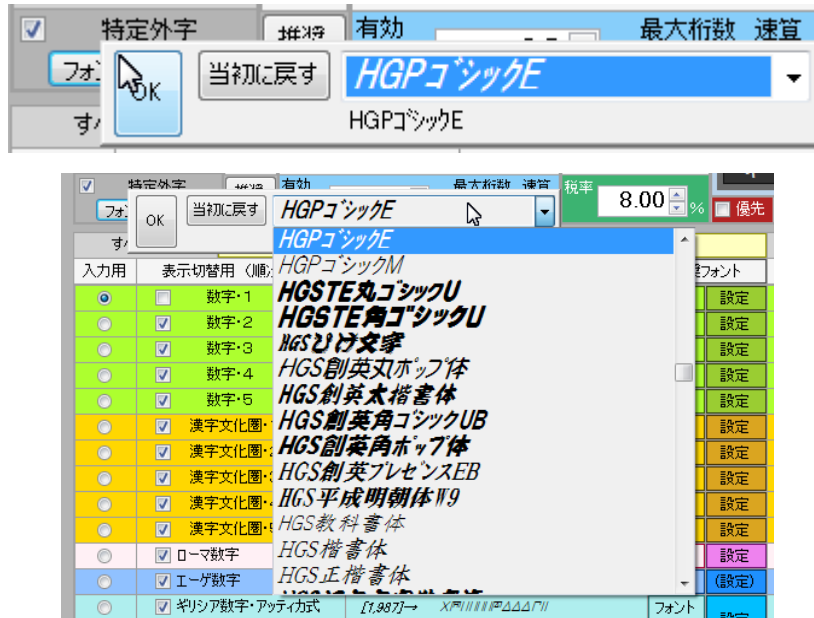
特定外字の集合は、ひとつの「外字ファイル」としてまとめることができ

外字の表示用フォントも、ひとつに絞ることができます。

- 特定外字「フォント」（ボタン）



特定外字の「フォント」ボタンを押すと、特定外字の表示用フォントを指定できます。  
 （フォントの種類は TrueType のみとなっています。OpenType フォントは一覧から除外されています。）



画像の例に揃える必要はまったくありませんが、特定外字を用いるそれぞれの数値表現にはここで選んだひとつのフォントを使って表示するように、フォントの設定を揃えてください。  
 （以下の特定外字についての説明では、画像のフォント名を選択したと仮定して説明していきます。）

また、外字の表示に利用するには、ここで指定するフォント名に対しては次で説明する外字ファイルとの「リンク」が登録されておく必要があります。

詳しくは後述しますが、外字の字形定義は「すべてのフォントにリンクする」外字ファイルと「指定したフォントにリンクする」外字ファイルとに分けられます。

端的に誤解を恐れずに説明しますと、前者は他の影響を受けやすく個人ごとでおこなう大雑把な字形定義に向いており、後者は他の影響を減らした積極的な管理が可能であり外字の字形定義を広く共用するのに向いていると思われます。

当アプリでは外字を皆様と共用しやすくしているため後者の方式となりますし、特定外字は電卓画面での数値表現のみならず、設定画面等での例示にも使っていますので外字ファイルが「指定したフォントにリンク」して、フォント経由で外字が表示されるようにここで特定外字用のフォントをひとつに決めておくことにしています。

なお、特定外字とは別に、一部のフォントには「ベンダー外字」と呼ばれる独自の外字を持つものもあります。

フォントが個別に持っている優先度の定義にもよりますが、多くの場合、ベンダー外字は特定外字などの「ユーザー外字」よりも優先して表示されるようになっていますのでここで選ぶ「特定外字の表示用フォント」としては、ベンダー外字を持っていない、あるいは、ベンダー外字の極めて少ないフォントを選ぶようにしてください。

最終的には、特定外字がきちんと表示されるのであれば、どのようなフォントを選んでも構いません。

- 特定外字「リンク」 (ボタン)



特定外字の「リンク」ボタンは、字形を定義した外字ファイルと表示用フォントとをリンクさせる「関連付け」をおこない、フォント経由で外字が表示されるようにします。

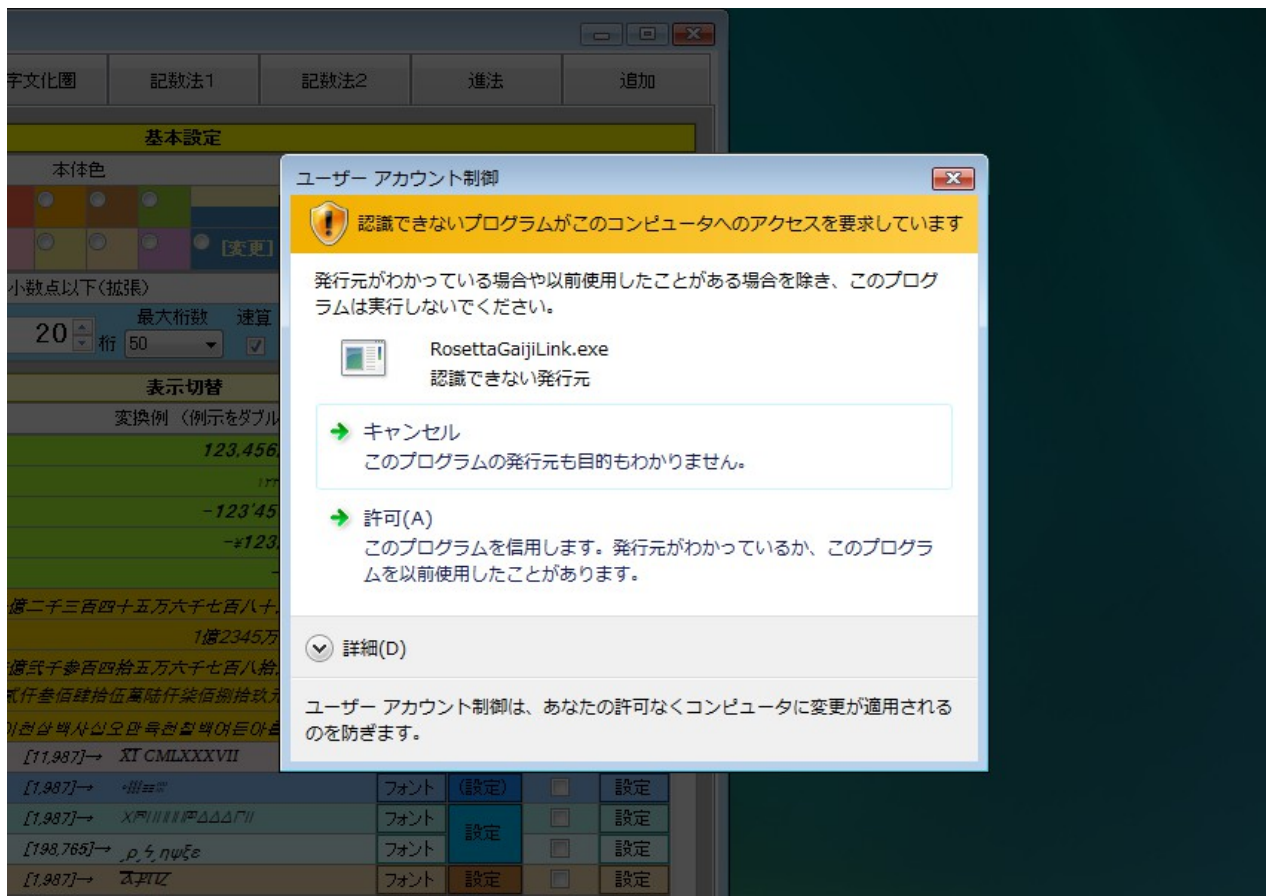
「リンク」ボタンにある盾のマークはこの先の処理に **管理者権限の付与** が必要であることを示しています。

外字ファイルとフォントとのリンクは、レジストリと呼ばれるシステムの管理領域に格納されるもので管理者権限は、これを操作するために必要となるものです。

これでは不安があるように思われる場合は、Windows 付属の「外字エディタ」(eudcedit.exe)を使って以下の説明と同様のリンク設定にすることも可能です。

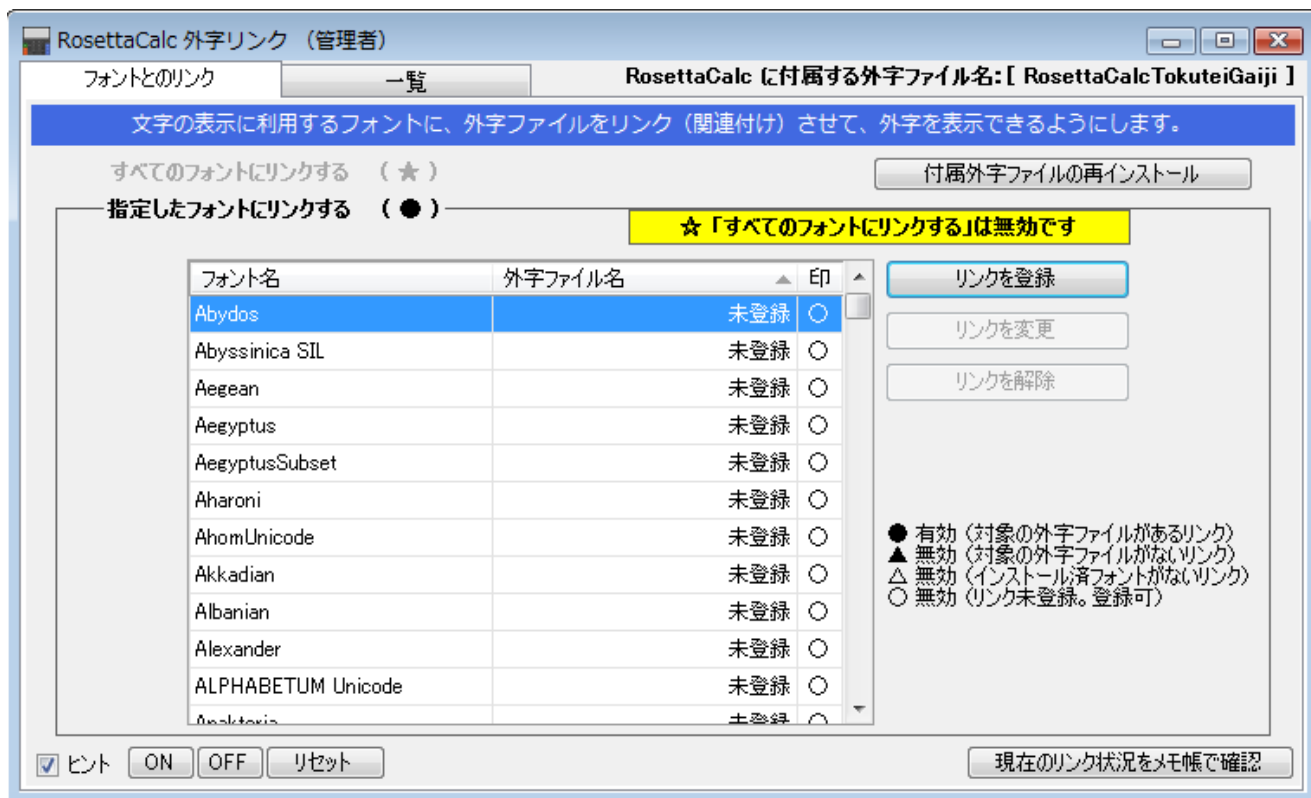
(この手順についても後述しています。ただし、これにも「管理者権限」は必要です。)

「リンク」ボタンを押すと画面が暗転して、次のような「ユーザー アカウント制御」画面が表示されます。管理者権限を付与して次へ進んでよいと判断した場合は、下段側の「許可 (A)」をクリックします。



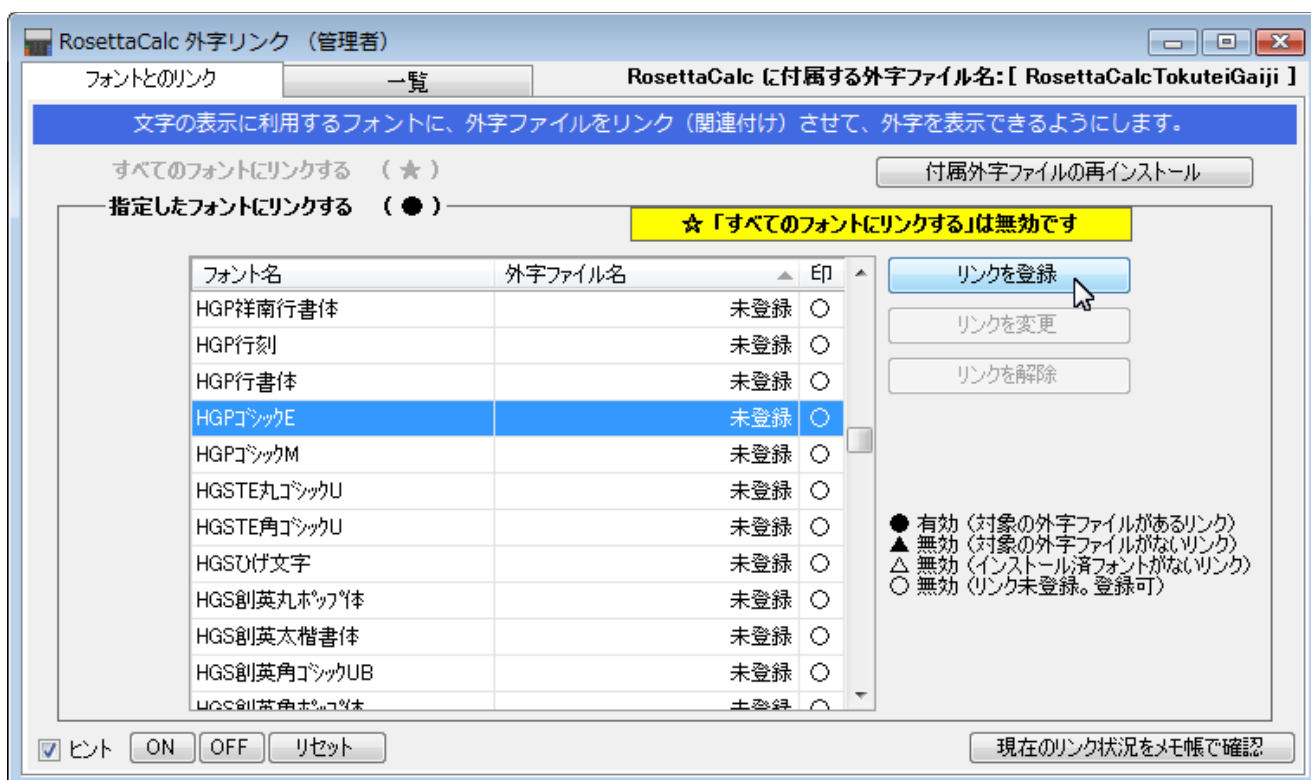
(画像は Windows Vista の場合です。「リンク」についての説明はまだ続きます。この処理もしくは「外字エディタ」のいずれかで許可をしないと特定外字は利用できませんが管理者の同意が得られなかったり判断自体ができないなどの場合には、許可はしないでください。)

ユーザーアカウント制御の画面で「許可」が与えられると、次のような画面が表示されます。  
 (画像は外字リンクが一切登録されていない状態です。)



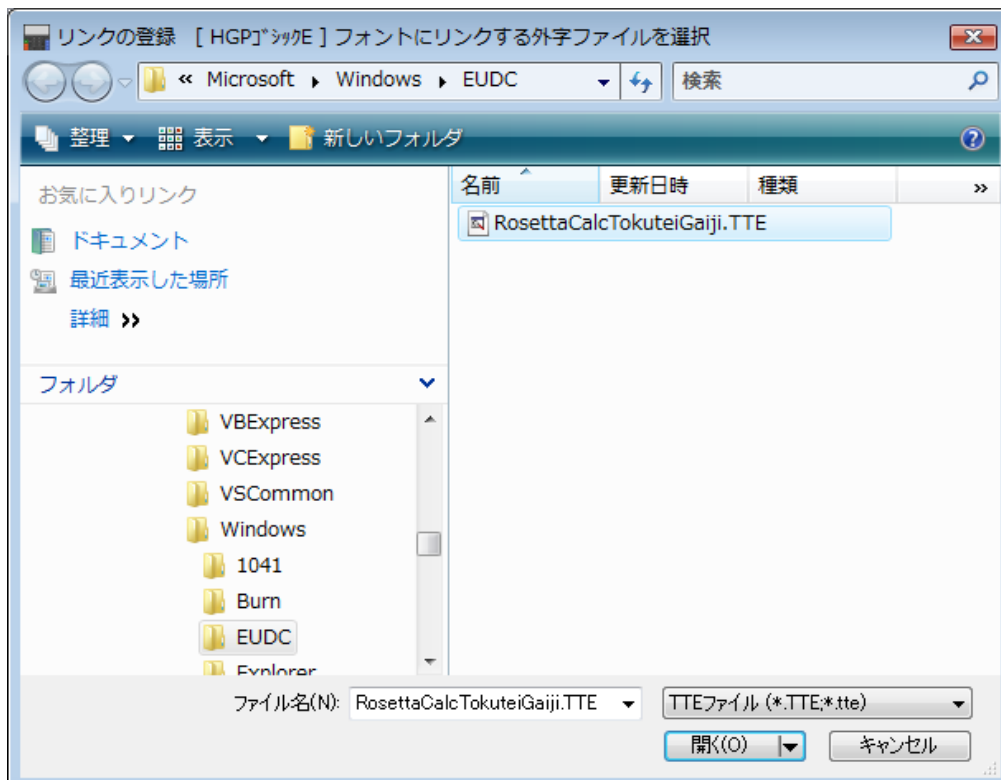
(この機能は当方でご提供している別アプリ [GaijiSupporter] の RosettaCalc 専用版です。)

すでに特定外字の表示用フォントを決めてある場合は、そのフォント名を選んで  
 「リンクを登録」のボタンを押します。(画像では前項の例で指定したフォント名に揃えています)



次に表示される画面で、システムが指定する「外字ファイルの置き場所」が開きますので選んだフォントにリンクさせる対象の外字ファイルを選択します。

当アプリのインストール時の指定で、外字ファイルもインストールしている場合には当アプリ付属の特定外字の外字ファイル [RosettaCalcTokuteiGaiji.TTE] が入っていますのでそれを選択して、ここでは「開く」となっているボタンを押して、リンクを登録します。

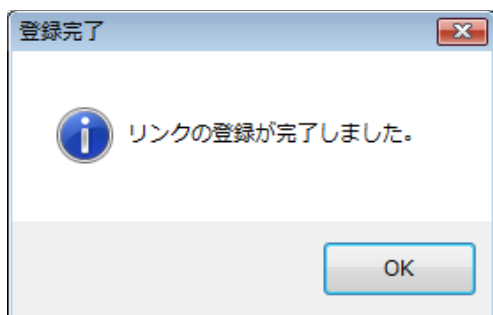


この段階で 当アプリ付属の特定外字ファイル[RosettaCalcTokuteiGaiji.TTE] が表示されていない場合は当アプリのインストール時に、外字ファイルをインストールする指定を外してインストールされています。

特定外字の外字ファイルは、本説明書を参考にすれば自作も可能で、同じ名前である必要もありませんがご自分で外字を一字ずつ登録して外字ファイルを別途作成するのは、数が多く、なかなか大変です。

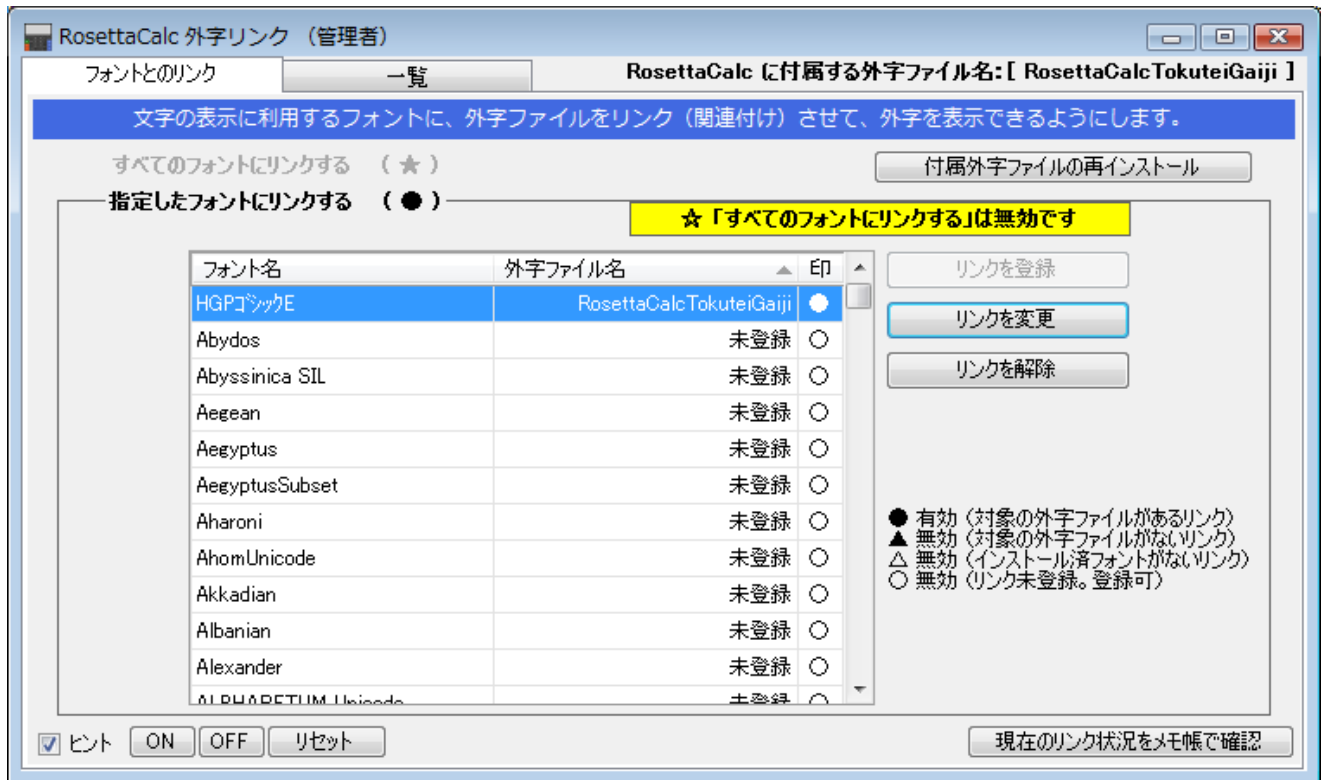
当アプリ付属の特定外字ファイルを使ってもよいと思われる場合は、上の画面は一旦キャンセルして元の画面にある「付属外字ファイルの再インストール」ボタンで外字ファイルをインストールしてからもう一度、上の画面が表示されるようにして処理してください。

上の画面で外字ファイルを選択し、「開く(O)」ボタンを押すと、リンクが登録されます。



リンクが登録されると、すでに外字がフォントを経由して表示できるようになっています。引き続き、以下でその確認までやっておきます。

次の画像のように、選択したフォントと外字ファイルとのリンクが登録されていることを確認します。  
 (外字ファイル名が登録されて先頭行にきています。印は色が反転していますが●(黒丸)で有効です。)



ここで画面上部のタブを「一覧」に切り替えると、外字ファイルに定義された個々の外字が  
 選択したフォントを經由して、一覧に表示されているのが確認できます。



当アプリ付属の特定外字ファイルがリンクされている場合には、上図の画面下部の表示域にて  
 個々の文字についての、文字名などの簡単な説明も参照できるようになっています。  
 (確認できたらこの画面は右上の赤い×印で終了してください)

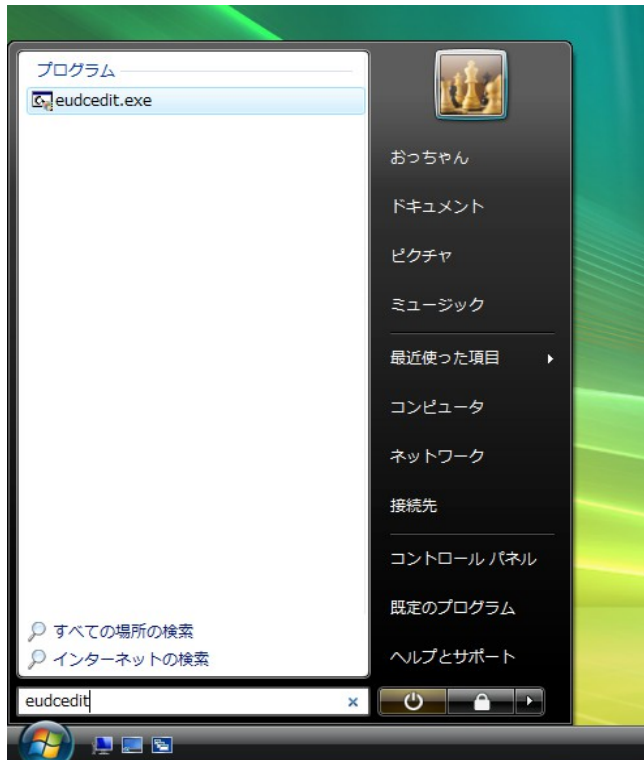


- 「外字エディタ」を使う場合

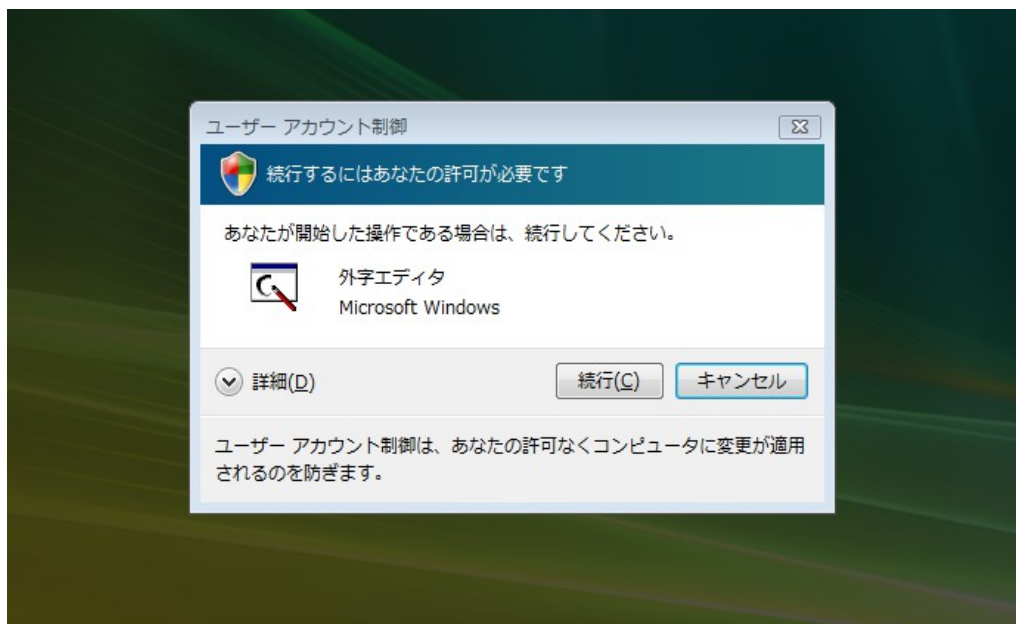
設定画面の「リンク」ボタンを使ってここまで設定した内容と同様のことを「外字エディタ」を使っておこなうには、次のようにします。  
(以下の説明ではリンクを一旦削除した上でやり直しています)

まず次の手順で「外字エディタ」を起動します。

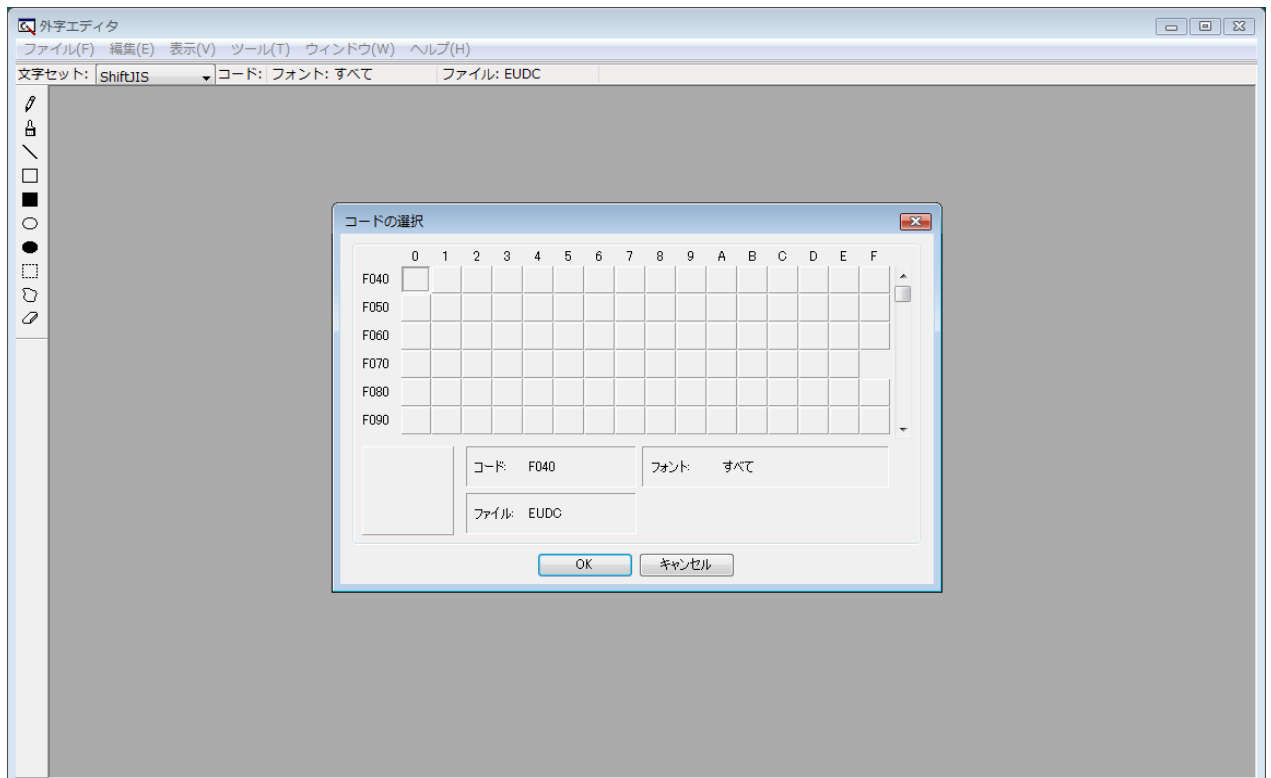
「スタート」ボタンを押して、スタートボタンの近くに表示される検索欄に [eudcedit] まで入力します。すると上段に検索結果として [eudcedit.exe] が表示されます。(アイコンはウィンドウにペンと描画)これが「外字エディタ」のことですので、そこでリターンキーを押します。



画面が暗転して「ユーザーアカウント制御」の画面が表示されますので「続行 (C)」をクリックします。



「外字エディタ」が起動しました。起動時点では「コードの選択」が表示され、次のようになっています。

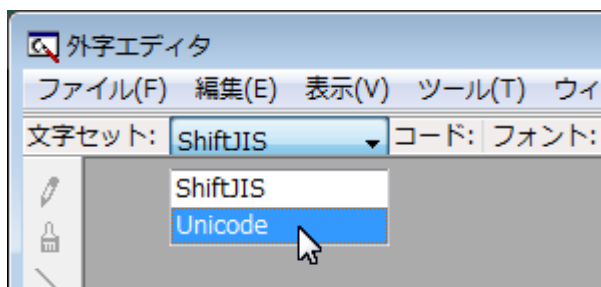


はじめの「コードの選択」画面は、外字エディタの起動時には毎回表示されるようになってはいますが、とりあえずは使いませんので、「キャンセル」を押して（または右上の赤い×印で）閉じてください。

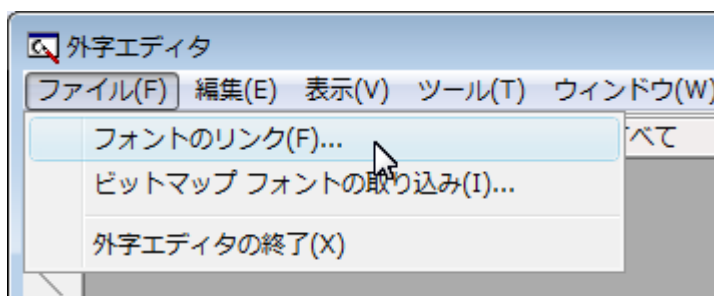
（「コードの選択」は、プルダウンメニュー [編集(E)] から再表示できます）

次に、あとで戸惑わないようにするため、あらかじめ「文字セット:」の選択をこれも起動時には毎回選択されている [ShiftJIS] から、[Unicode] へ、切り替えておいてください。

（当アプリの特定外字は、数値表現ごとに Unicode のコードポイントを基準にして始点を定義しているためです。ShiftJIS の外字は、Unicode 外字の前半部分と同じコードポイントを使いますが、外字の総数は3分の1以下でありコードが一定の箇所です「シフト」するため、16進表示で一覧する際には、表示箇所がズレたように表示されます。）



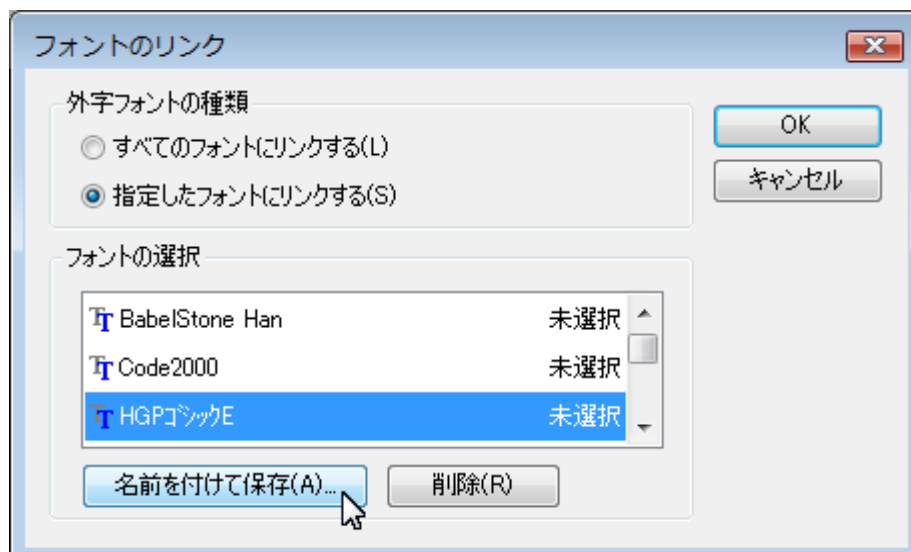
以上で準備ができましたので、実際の作業に入っていきます。  
プルダウンメニュー [ファイル(F)] から「フォントのリンク(F)…」を選びます。



外字エディタの画面中央に、はじめは次のように「フォントのリンク」画面が表示されます。



ここでは当アプリ付属の特定外字の外字ファイルを使うため、上段の「外字フォントの種類」の欄は「すべてのフォントにリンクする(L)」から「指定したフォントにリンクする(S)」へ、切り替えます。すると、それまでは使えなかった、下段側の「フォントの選択」欄が、利用可能になります。

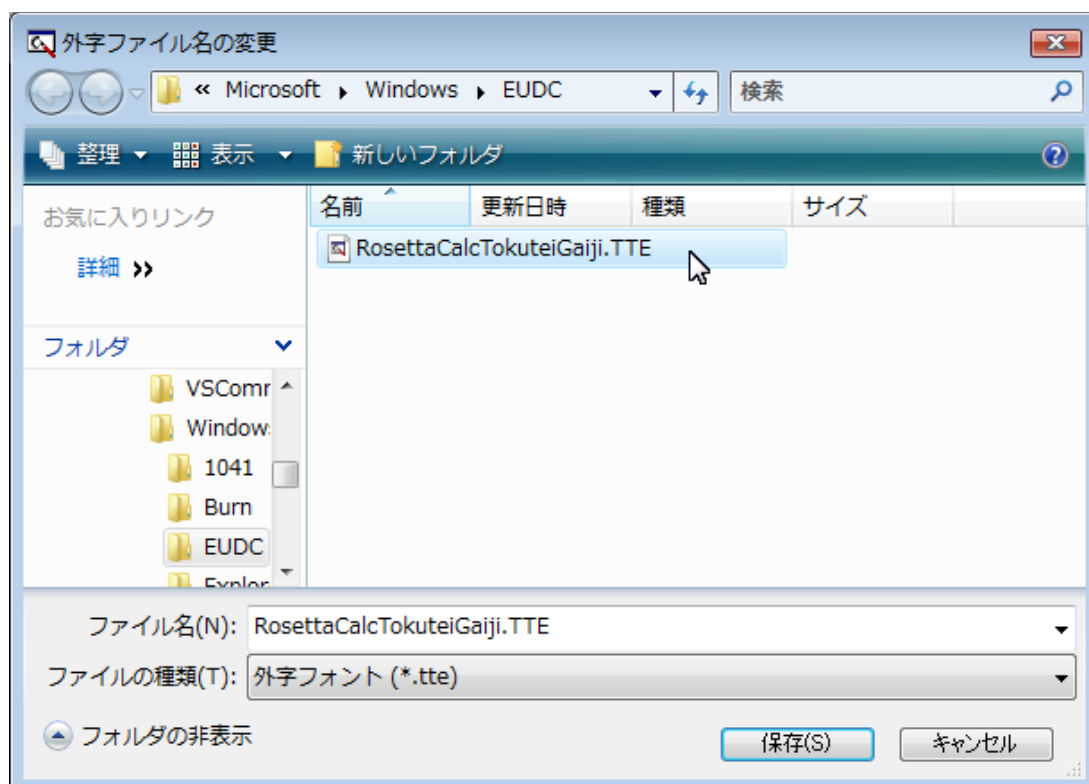


利用可能となった「フォントの選択」欄の選択肢で特定外字の表示用フォントとして決めておいたフォント名を選択した上で「名前を付けて保存(A)…」ボタンを押します。

(「OK」ボタンでも次の指定はできますが、「フォントのリンク」画面も一旦消えてしまうのでせっかく設定したリンクの状況を確認しづらくなるため、ここでは「名前を付けて保存(A)…」ボタンから次へ進むようにしてください。)

「名前を付けて保存(A)…」ボタンを押すと、次のような「外字ファイル名の変更」画面が表示されてシステムが指定する「外字ファイルの置き場所」が開きますので先ほど選んだフォントにリンクさせる対象の外字ファイルを選びます。

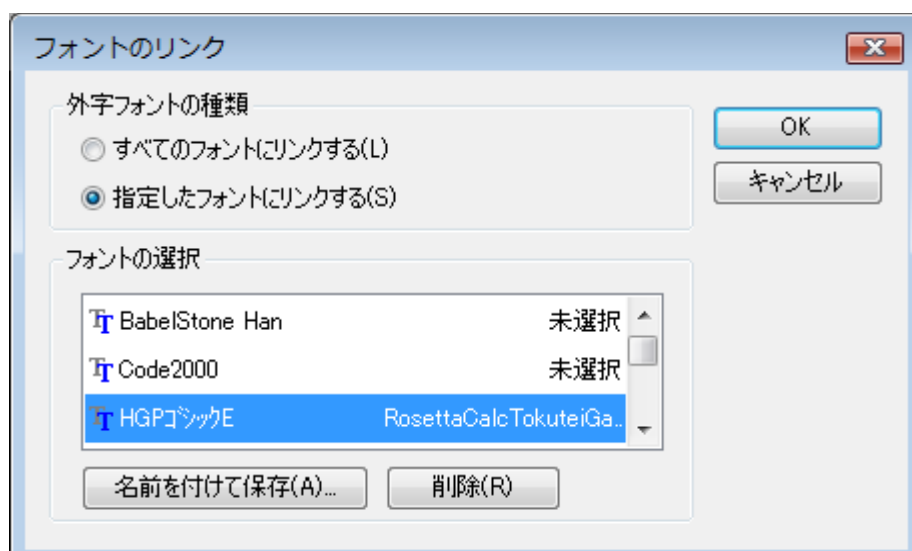
(画面のタイトルは「変更」となっていますが、この時点では選ぶだけで、変更の必要はありません。)



この段階で 当アプリ付属の特定外字ファイル[RosettaCalcTokuteiGaiji.TTE] が表示されていない場合は当アプリのインストール時に、外字ファイルをインストールする指定を外してインストールされています。

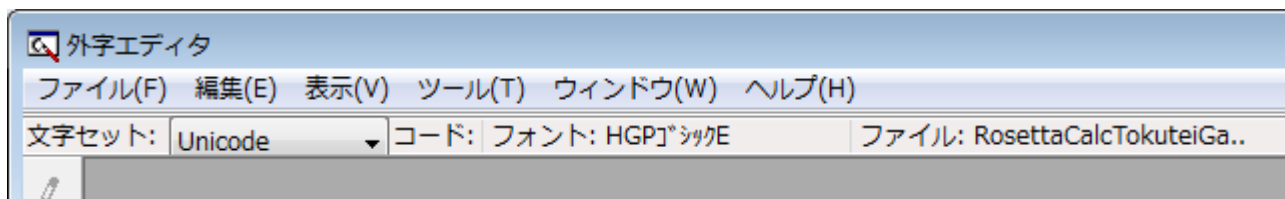
設定画面の「リンク」ボタンにはこの特定外字ファイルの再インストール機能がありますがこの機能を使わずに、当初はインストールしなかった特定外字ファイルを使いたい場合にはお手数ですが、当方サイトから特定外字ファイルをダウンロードして上図の場所に設置するかまたは当アプリ本体の再インストールからやり直すようにしてください。

当アプリ付属の特定外字の外字ファイル [RosettaCalcTokuteiGaiji.TTE] を選んで「保存(S)」を押すと「フォントのリンク」画面に戻るので、外字ファイルとのリンクが登録されているのが確認できます。

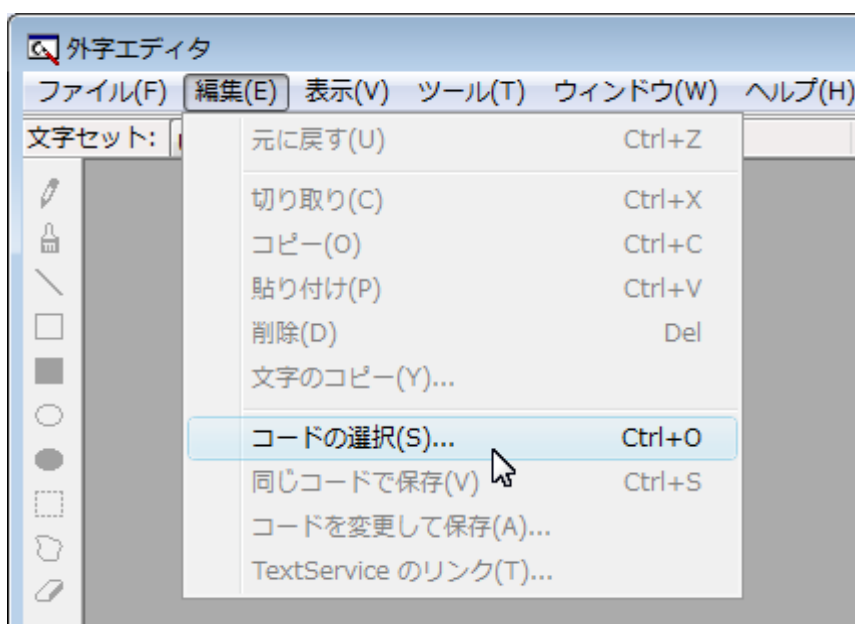


「未選択」だった箇所に、外字ファイル名が表示されています。確認できたら「OK」を押してください。

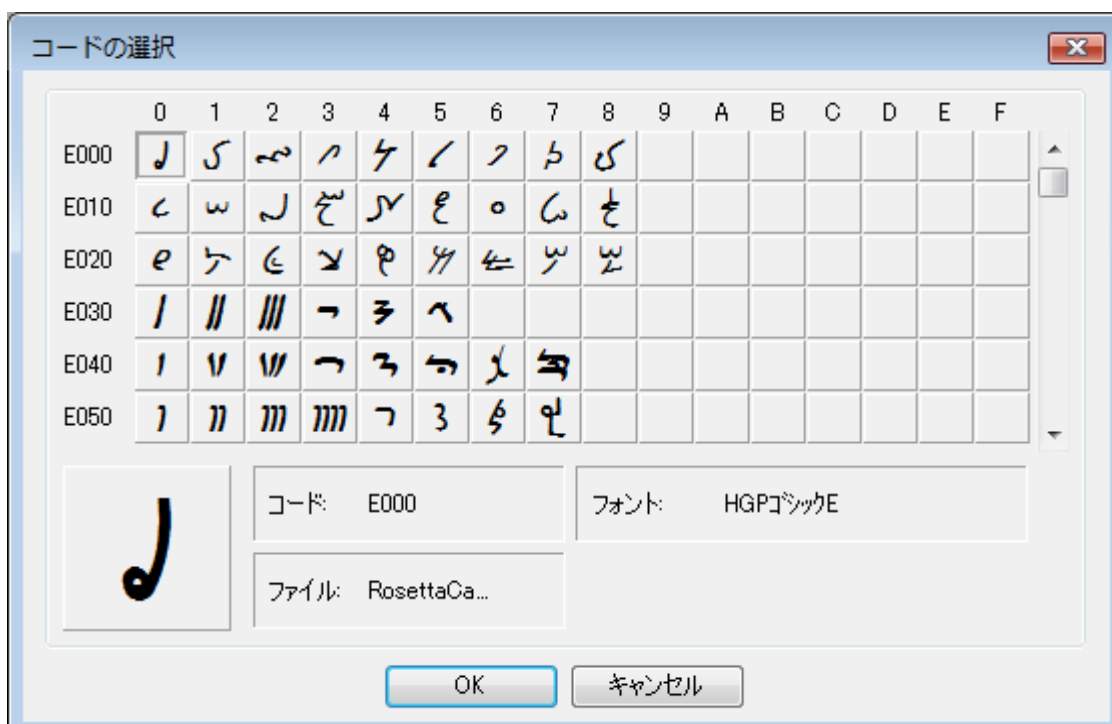
最後に、この時点ですでに外字が表示できるようになっている筈ですので、確認しておきましょう。  
 先ほどの「フォントのリンク」画面で「OK」を押した時点の内容が、外字エディタの画面上部で「フォント:」欄と「ファイル:」欄とに表示されていることを確認します。



プルダウンメニュー [編集(E)] から、「コードの選択(S)…」を選択します。

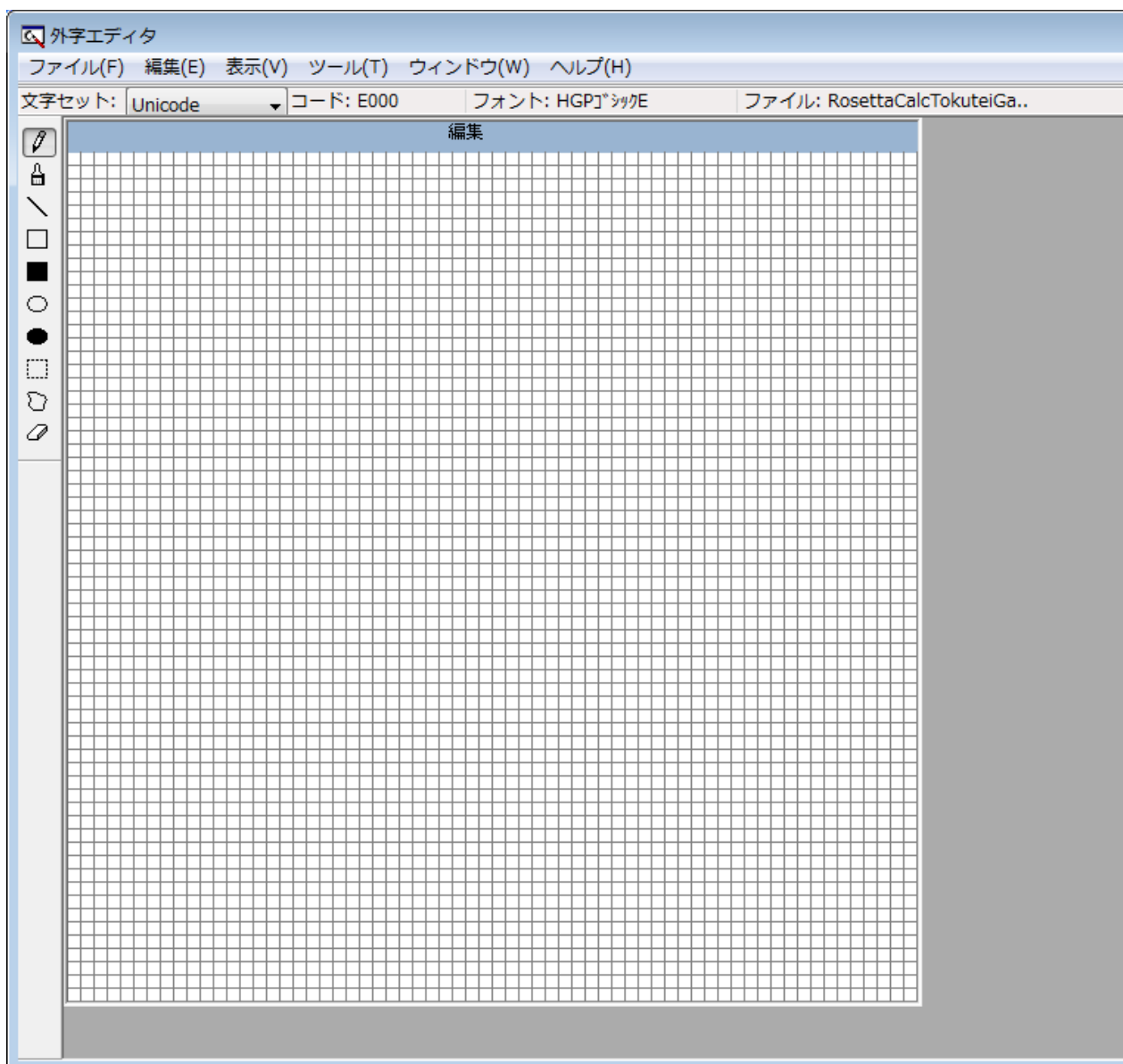


はじめに表示されていた「コードの選択」画面が ([ShiftJIS]ではなく) [Unicode]の様式で再び表示され外字の各文字として、当アプリの特定外字の字形が表示できていることが確認できます。



なお「外字エディタ」では、前頁の「コードの選択」画面の状態のまま「OK」を押せば選択中のコードを持つ外字の字形についての「編集」画面が表示されるようになっています。

通常は、選択中の外字の字形が「編集」画面に表示されて編集できるようになりますが当アプリ付属の特定外字の外字ファイル [RosettaCalcTokuteiGaiji.TTE] では（先頭側の一部の文字については）そのままでは編集画面に表示されない状態になっています。



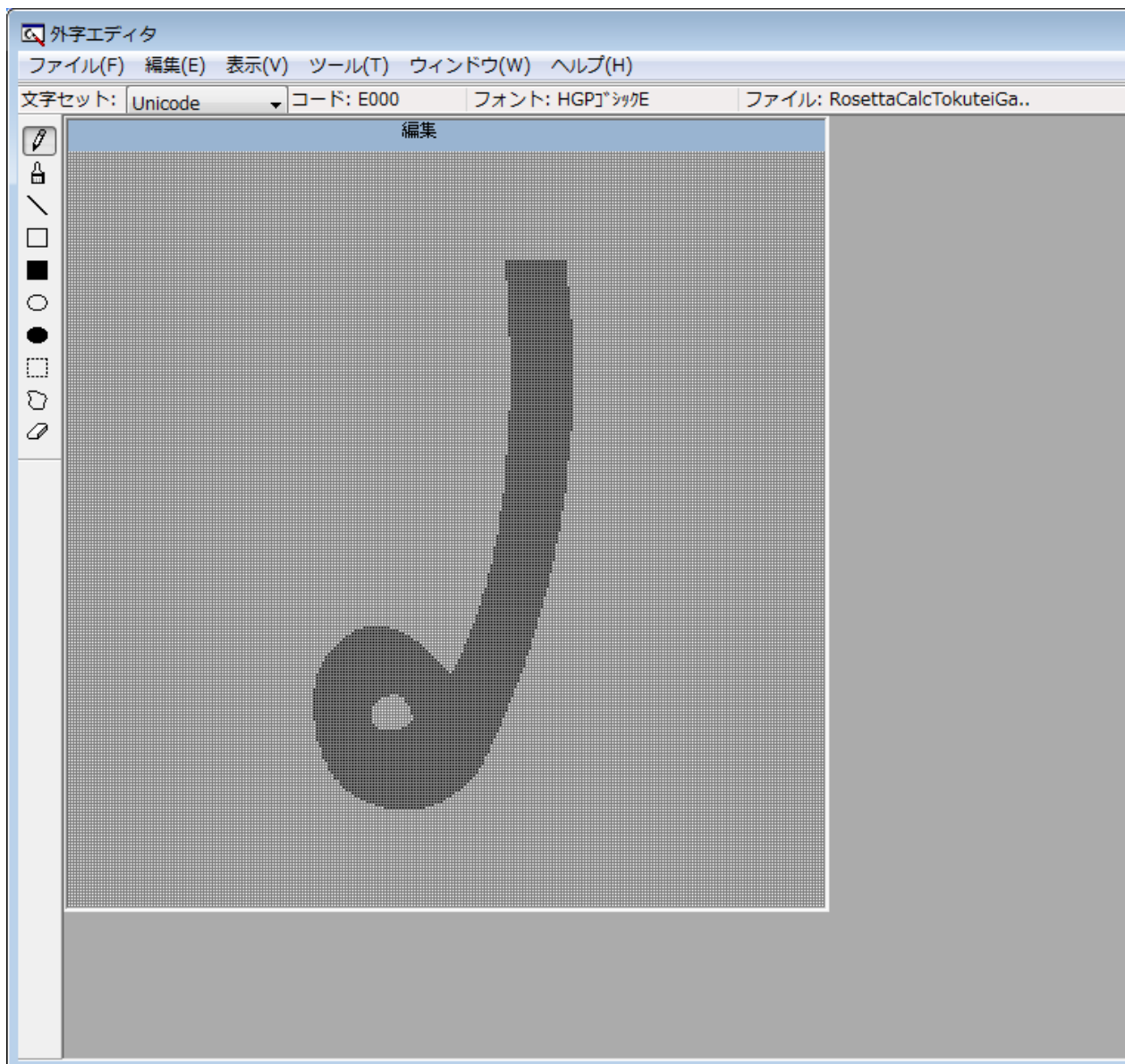
これは、通常の設定では「64×64」のマス目で字形を編集・登録するのに対し当アプリ付属の外字ファイル [RosettaCalcTokuteiGaiji.TTE] では外字としては高精細な「256×256」の編集精度で登録している外字があるためです。

「編集」画面を開いただけなら大丈夫ですが「64×64」のままの状態でも編集したものを実際に保存してしまうと当初の字形は保持されませんのでご注意ください。

(外字は個人で自由に登録できますので、付属の外字ファイルは改変していただいても構いません。作業前にはあらかじめ別ファイルとして用意しておくことをお勧めしますがもしいくつかの外字を直接、誤って編集・上書き保存してしまった場合は前々頁を参考に、当アプリ付属の外字ファイルを再インストールすれば復旧できます。)



ちなみに、この字形を編集画面に表示して編集するには、「外字エディタ」を一旦終了して編集精度を「256×256」に切り替えてから再び起動しここまでと同様の手順で「編集」画面を表示することで、実際に編集できるようになります。

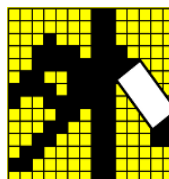


前頁の画像と比べると、1文字あたりのマス目の詰まり具合が細かくなっています。これが編集精度で、特に字形が単純な場合の、微妙な角度や曲線などの表現には、精度の細かいほうが有利になります。

外字エディタで編集する外字の「編集精度の切り替え」は、通常は安全な手段がないためできませんが当方でご提供しているフリーソフト [ [GaijiSupporter](#) ] (外字サポーター) を使えば可能となります。もしよろしければ、ご活用ください。



GaijiSupporter



([GaijiSupporter] では、外字エディタの編集精度の変更および起動、フォントと外字ファイルとのリンク設定、ペアで扱う必要のある外字ファイルの管理、外字の一覧表示、個々の外字ごとの文字説明の記入と検索、などがサンプルの外字ファイルも含んで、わかりやすく、簡単・安全にできるようになっています。)

● フォント「推奨DL」（ボタン）

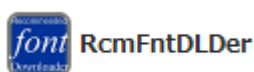


「推奨DL」ボタンを押すと、当方推奨フォントのダウンロード用アプリ「推奨フォントのダウンローダ」（[ [RcmFntDLDer](#) ]：当方別途提供のフリーソフト）を開きます。

見れない文字が多いなど、表示用フォントが足りない場合にご利用ください。

（当該アプリがまだインストールされていない場合には  
当該アプリのダウンロードも可能な、概要紹介ページを表示できます。）

（このアプリを使うと、ダウンロードしたフォントの [インストール作業] は  
新規インストールするフォントに関しては「自動処理」が可能です。  
またフォントを更新する場合にも手作業への支援機能が使えます。）



当アプリ (RosettaCalc) 用の推奨フォントは、上段にある [RosettaCalc] ボタンを押せば明示されます。  
※詳しくは当該ソフトの説明をご参照ください。

◆◆ 起動系機能 ————— 「優先」、「リセット」、「再起動」



● 「優先」 (チェックボックス)



ここにチェックが入っていると、当アプリの起動時に  
電卓画面で「設定」ボタンを押さなくとも  
設定画面を優先的に開くことができます。

● 「リセット」 (チェックボックス)



ここにチェックが入った状態で終了または再起動すると、次回起動時には  
これまで当アプリでおこなった設定の変更を  
すべてリセットした状態にして起動できます。(この指定も毎回リセットされます。)

インストール直後の状態に戻したい場合にご利用ください。  
※同様の機能は当アプリの [TOOLS] にある「リサイクラー」でも可能です。

● 「再起動」 (ボタン)



クリックすると、確認用画面が開き、そこで確認すると  
この設定画面を閉じて、当アプリを再起動できます。

専用付属アプリ「命数の一覧表」

命数の一覧表

※ [命数の一覧表] は、当アプリ専用に付属しているものです。（設定画面からも起動できます。）  
 世界各地で「位取り」などに使われる数値の呼び名「命数」を、参考のために言語や文化等でまとめたものです。  
 （当方サイトにも同種のページを用意していますが、こちらはアプリとして動作するもので、小数部なども参照できます。）

RosettaCalc 命数の一覧表												
整数(人数)												
10のべき乗	漢数字	中数	万進法(4桁)	万進法(4桁)	万進法(4桁)	万進法(4桁)	万進法(4桁)	万進法(4桁)	万進法(4桁)	万進法(4桁)	万進法(4桁)	万進法(4桁)
1.0 <sup>0</sup>	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
1.0 <sup>1</sup>	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
1.0 <sup>2</sup>	百	百	百	百	百	百	百	百	百	百	百	百
1.0 <sup>3</sup>	千	千	千	千	千	千	千	千	千	千	千	千
1.0 <sup>4</sup>	万	万	万	万	万	万	万	万	万	万	万	万
1.0 <sup>5</sup>	十万	十万	十万	十万	十万	十万	十万	十万	十万	十万	十万	十万
1.0 <sup>6</sup>	百万	百万	百万	百万	百万	百万	百万	百万	百万	百万	百万	百万
1.0 <sup>7</sup>	千万	千万	千万	千万	千万	千万	千万	千万	千万	千万	千万	千万
1.0 <sup>8</sup>	億	億	億	億	億	億	億	億	億	億	億	億
1.0 <sup>9</sup>	十億	十億	十億	十億	十億	十億	十億	十億	十億	十億	十億	十億
1.0 <sup>10</sup>	百億	百億	百億	百億	百億	百億	百億	百億	百億	百億	百億	百億
1.0 <sup>11</sup>	千億	千億	千億	千億	千億	千億	千億	千億	千億	千億	千億	千億
1.0 <sup>12</sup>	兆	兆	兆	兆	兆	兆	兆	兆	兆	兆	兆	兆
1.0 <sup>13</sup>	十兆	十兆	十兆	十兆	十兆	十兆	十兆	十兆	十兆	十兆	十兆	十兆
1.0 <sup>14</sup>	百兆	百兆	百兆	百兆	百兆	百兆	百兆	百兆	百兆	百兆	百兆	百兆
1.0 <sup>15</sup>	千兆	千兆	千兆	千兆	千兆	千兆	千兆	千兆	千兆	千兆	千兆	千兆
1.0 <sup>16</sup>	京	京	京	京	京	京	京	京	京	京	京	京
1.0 <sup>17</sup>	十京	十京	十京	十京	十京	十京	十京	十京	十京	十京	十京	十京
1.0 <sup>18</sup>	百京	百京	百京	百京	百京	百京	百京	百京	百京	百京	百京	百京
1.0 <sup>19</sup>	千京	千京	千京	千京	千京	千京	千京	千京	千京	千京	千京	千京
1.0 <sup>20</sup>	垓	垓	垓	垓	垓	垓	垓	垓	垓	垓	垓	垓
1.0 <sup>21</sup>	十垓	十垓	十垓	十垓	十垓	十垓	十垓	十垓	十垓	十垓	十垓	十垓
1.0 <sup>22</sup>	百垓	百垓	百垓	百垓	百垓	百垓	百垓	百垓	百垓	百垓	百垓	百垓
1.0 <sup>23</sup>	千垓	千垓	千垓	千垓	千垓	千垓	千垓	千垓	千垓	千垓	千垓	千垓
1.0 <sup>24</sup>	穰	穰	穰	穰	穰	穰	穰	穰	穰	穰	穰	穰
1.0 <sup>25</sup>	十穰	十穰	十穰	十穰	十穰	十穰	十穰	十穰	十穰	十穰	十穰	十穰
1.0 <sup>26</sup>	百穰	百穰	百穰	百穰	百穰	百穰	百穰	百穰	百穰	百穰	百穰	百穰
1.0 <sup>27</sup>	千穰	千穰	千穰	千穰	千穰	千穰	千穰	千穰	千穰	千穰	千穰	千穰
1.0 <sup>28</sup>	穰	穰	穰	穰	穰	穰	穰	穰	穰	穰	穰	穰
1.0 <sup>29</sup>	十穰	十穰	十穰	十穰	十穰	十穰	十穰	十穰	十穰	十穰	十穰	十穰
1.0 <sup>30</sup>	百穰	百穰	百穰	百穰	百穰	百穰	百穰	百穰	百穰	百穰	百穰	百穰
1.0 <sup>31</sup>	千穰	千穰	千穰	千穰	千穰	千穰	千穰	千穰	千穰	千穰	千穰	千穰

小数												
10のべき乗	漢数字	よみ	ハングル	アラビア数字	西洋式 Short Scale (3桁)	西洋式 Long Scale (6桁)	10のべき乗	SI	日本語	10のべき乗	SI	日本語
1.0 <sup>-0</sup>	一	いち	일	1	One	One	1.0 <sup>-0</sup>	1	一	1.0 <sup>-0</sup>	1	一
1.0 <sup>-1</sup>	分	ぶ	분	0.1	Tenth	Tenth	1.0 <sup>-1</sup>	0.1	十分の一	1.0 <sup>-1</sup>	0.1	十分の一
1.0 <sup>-2</sup>	厘(釐)	りん	린	0.01	Hundredth	Hundredth	1.0 <sup>-2</sup>	0.01	百分の一	1.0 <sup>-2</sup>	0.01	百分の一
1.0 <sup>-3</sup>	毛(毫)	もう	모	0.001	Thousandth	Thousandth	1.0 <sup>-3</sup>	0.001	千分の一	1.0 <sup>-3</sup>	0.001	千分の一
1.0 <sup>-4</sup>	糸(絲)	し	사	0.0001	ten Thousandth	ten Thousandth	1.0 <sup>-4</sup>	0.0001	万分の一	1.0 <sup>-4</sup>	0.0001	万分の一
1.0 <sup>-5</sup>	忽(忽)	つ	츄	0.00001	hundred Thousandth	hundred Thousandth	1.0 <sup>-5</sup>	0.00001	十万分の一	1.0 <sup>-5</sup>	0.00001	十万分の一
1.0 <sup>-6</sup>	微	ひ	비	0.000001	Millionth	Millionth	1.0 <sup>-6</sup>	0.000001	百万分の一	1.0 <sup>-6</sup>	0.000001	百万分の一
1.0 <sup>-7</sup>	纖	せん	선	0.0000001			1.0 <sup>-7</sup>	0.0000001	千万分の一	1.0 <sup>-7</sup>	0.0000001	千万分の一
1.0 <sup>-8</sup>	沙	しゃ	사	0.00000001			1.0 <sup>-8</sup>	0.00000001	一億分の一	1.0 <sup>-8</sup>	0.00000001	一億分の一
1.0 <sup>-9</sup>	塵	じん	진	0.000000001	Billionth		1.0 <sup>-9</sup>	0.000000001	十億分の一	1.0 <sup>-9</sup>	0.000000001	十億分の一
1.0 <sup>-10</sup>	埃	あい	애	0.0000000001			1.0 <sup>-10</sup>	0.0000000001	百亿分の一	1.0 <sup>-10</sup>	0.0000000001	百亿分の一
1.0 <sup>-11</sup>	渺	びょう	뵤	0.00000000001			1.0 <sup>-11</sup>	0.00000000001	千亿分の一	1.0 <sup>-11</sup>	0.00000000001	千亿分の一
1.0 <sup>-12</sup>	漠	ぼく	복	0.000000000001	Trillionth	Billionth	1.0 <sup>-12</sup>	0.000000000001	兆分の一	1.0 <sup>-12</sup>	0.000000000001	兆分の一
1.0 <sup>-13</sup>	穠	もく	목	0.0000000000001			1.0 <sup>-13</sup>	0.0000000000001	十兆分の一	1.0 <sup>-13</sup>	0.0000000000001	十兆分の一
1.0 <sup>-14</sup>	逡迷	しゆんみ	슌미	0.00000000000001			1.0 <sup>-14</sup>	0.00000000000001	百兆分の一	1.0 <sup>-14</sup>	0.00000000000001	百兆分の一
1.0 <sup>-15</sup>	漚空	しゆく	슉공	0.000000000000001	Quadrillionth		1.0 <sup>-15</sup>	0.000000000000001	千兆分の一	1.0 <sup>-15</sup>	0.000000000000001	千兆分の一

特殊単位 (SI/SL/IEC) など												
SI 特殊単位 (国際単位)	SI 特殊単位 (非国際単位)	SI 特殊単位 (非国際単位)	SI 特殊単位 (非国際単位)	SI 特殊単位 (非国際単位)	SI 特殊単位 (非国際単位)	SI 特殊単位 (非国際単位)	SI 特殊単位 (非国際単位)	SI 特殊単位 (非国際単位)	SI 特殊単位 (非国際単位)	SI 特殊単位 (非国際単位)	SI 特殊単位 (非国際単位)	SI 特殊単位 (非国際単位)
デカ deca-	deka-	da	10 <sup>1</sup>	10								
ヘクト hecto-	hecto-	h	10 <sup>2</sup>	100								
キロ kilo-	kilo-	k	10 <sup>3</sup>	1 000	K	2	10	1 024	キセ	kki-	キ	
メガ mega-	mega-	M	10 <sup>6</sup>	1 000 000	M	2	20	1 048 576	メセ	mebi-	メ	
ギガ giga-	giga-	G	10 <sup>9</sup>	1 000 000 000	G	2	30	1 073 741 824	ギセ	gibi-	ギ	
テラ terra-	tera-	T	10 <sup>12</sup>	1 000 000 000 000	T	2	40	1 099 511 607 776	テセ	tebi-	テ	
ペタ peta-	peta-	P	10 <sup>15</sup>	1 000 000 000 000 000	P	2	50	1 125 890 506 842 624	ペセ	pebi-	ペ	
エクサ exa-	exa-	E	10 <sup>18</sup>	1 000 000 000 000 000 000	E	2	60	1 152 921 504 406 846 976	エクセ	exbi-	エク	
ゼット zetta-	zetta-	Z	10 <sup>21</sup>	1 000 000 000 000 000 000 000	Z	2	70	1 180 591 620 717 411 303 424	ゼセ	zebi-	ゼ	
ヨタ yotta-	yotta-	Y	10 <sup>24</sup>	1 000 000 000 000 000 000 000 000	Y	2	80	1 208 925 816 614 629 174 706 176	ヨセ	yobi-	ヨ	

(このアプリは表示項目が多いため、表示を最大化したほうが使いやすくなります。)

RosettaCalc・設定

基本 数字 漢字文化圏 記数法1 記数法2 進法 追加

**基本設定**

各種機能  
 切替 [ボタン]  
 安全なコピー  
 進法入力  
 入力時も追加表示  
 特定外字  
 フォント

本体色

表示域  
 基本色  
 白黒  黒白

電卓の表示スタイル  
 標準  
 斜体

小数点以下(拡張) 税計算  
 有効桁数(予備) 20 桁 50 最大桁数 速算  税率 10.00 %  
 優先  リセット  再起動

すべて  **表示切替**  すべて

入力用	表示切替用 (順次切替)	変換例 (例示をダブルクリックすると説明)	推奨フォント	追加
<input checked="" type="radio"/>	<input type="checkbox"/> 数字・1	-123,456,789.012	フォント 設定	<input type="checkbox"/> 設定
<input type="radio"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 数字・2	-123,456,789.012	フォント 設定	<input type="checkbox"/> 設定
<input type="radio"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 数字・3	-123'456'789.01	フォント 設定	<input type="checkbox"/> 設定
<input type="radio"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 数字・4	-¥123,456,789	フォント 設定	<input type="checkbox"/> 設定
<input type="radio"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 数字・5	-123,456,789.012	フォント 設定	<input type="checkbox"/> 設定
<input type="radio"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 漢字文化圏・1	一億二千三百四十五万六千七百八十九・〇一ニ	フォント 設定	<input type="checkbox"/> 設定
<input type="radio"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 漢字文化圏・2	1億2345万6789.012	フォント 設定	<input type="checkbox"/> 設定
<input type="radio"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 漢字文化圏・3	壹億貳千叁百四拾伍万六千七百八拾九・〇壹貳	フォント 設定	<input type="checkbox"/> 設定
<input type="radio"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 漢字文化圏・4	壹亿贰仟叁佰肆拾伍萬陆仟柒佰捌拾玖元零角壹分	フォント 設定	<input checked="" type="checkbox"/> 設定
<input type="radio"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 漢字文化圏・5	억이천삼백사십오만 육천칠백여든아홉점영일이	フォント 設定	<input checked="" type="checkbox"/> 設定
<input type="radio"/>	<input checked="" type="checkbox"/> ローマ数字	[1,987]→ XI CMLXXXVII	フォント 設定	<input type="checkbox"/> 設定
<input type="radio"/>	<input checked="" type="checkbox"/> エーゲ数字	[1,987]→ ϞϞϞϞ	フォント (設定)	<input type="checkbox"/> 設定
<input type="radio"/>	<input checked="" type="checkbox"/> ギリシア数字・アッティカ式	[1,987]→ ΧϞϞϞϞϞΔΔΔΓϞ	フォント 設定	<input type="checkbox"/> 設定
<input type="radio"/>	<input checked="" type="checkbox"/> ギリシア数字・イオニア式	[198,765]→ ρ,Ϝ,ηψξε	フォント 設定	<input type="checkbox"/> 設定
<input type="radio"/>	<input checked="" type="checkbox"/> コプト数字	[1,987]→ ⲌⲠⲚⲚ	フォント 設定	<input type="checkbox"/> 設定
<input type="radio"/>	<input checked="" type="checkbox"/> ゴート数字	[198]→ 𐌶𐌵𐌹	フォント 設定	<input type="checkbox"/> 設定
<input type="radio"/>	<input checked="" type="checkbox"/> グルジア数字(現ジョージア)	[19,876]→ 93963	フォント 設定	<input type="checkbox"/> 設定
<input type="radio"/>	<input checked="" type="checkbox"/> アルメニア数字	[198,765]→ ԹԹԹԹԹԵ	フォント 設定	<input type="checkbox"/> 設定
<input type="radio"/>	<input checked="" type="checkbox"/> キリル数字	[198,765]→ 1р/4/иџ3e	フォント 設定	<input type="checkbox"/> 設定

設定の変更を電卓に反映させるには [OK] を押します。  
 一部の文字は環境により見れないことがあります。

表示を継続  ヒントと拡大表示

RosettaCalc  
 ver. 1.06  
 基本設定 SettingBase

Copyright © 2015-2020 occhann's software. All Rights Reserved.